

令和 7 年度
ごみ減量化に関する
市民アンケート

報 告

I 調査の概要

I 調査の概要

1. 調査の目的

市民のごみ処理に対する意識、意見、要望等を統計的手法によつて的確に把握し、廃棄物行政運営の有効な資料を得ることを目的に実地した。

2. 調査の対象・方法等

- (1) 調査地域 相模原市全域
- (2) 調査対象 高校3年生に相当する年齢以上の相模原市在住者
- (3) 標 本 数 2,986 人 (3,000 人に送付、宛先不明のため 14 通返送)
- (4) 抽出方法 住民基本台帳からの等間隔系統抽出 (3,000 人)
- (5) 調査方法 郵送調査法 (郵送配付ー郵送・オンライン回収、はがきによる督促 1 回)
- (6) 調査期間 令和 7 年 8 月 6 日～8 月 29 日
- (7) 有効回収数 (率) 1,530 (51.2%)

3. 調査項目

本調査の項目は、下表のとおりである。

調査項目	設問番号
1 家庭ごみに関する興味・関心について	問 1 ～問 8
2 家庭ごみの有料化について	問 9 ～問12
3 戸別収集について	問13～問15
4 その他について	問16～問18
基本属性 (年齢、居住地等)	F 1 ～ F 4

4. 区別

地 域	地区
1 緑区	橋本地区、大沢地区、城山地区、津久井地区、相模湖地区、藤野地区
2 中央区	小山地区、清新地区、横山地区、中央地区、星が丘地区、光が丘地区、大野北地区、田名地区、上溝地区
3 南区	大野中地区、大野南地区、麻溝地区、新磯地区、相模台地区、相武台地区、東林地区

5. 区別・地区別回収状況



区	地区名	回収数
緑区	橋本	164
	大沢	67
	城山	39
	津久井	45
	相模湖	14
	藤野	12
	緑区計	341

区	地区名	回収数
南区	大野中	80
	大野南	185
	麻溝	53
	新磯	34
	相模台	68
	相武台	29
	東林	89
	南区計	538

区	地区名	回収数
中央区	小山	43
	清新	26
	横山	29
	中央	192
	星が丘	23
	光が丘	36
	大野北	87
	田名	63
	上溝	67
	中央区計	566

地区不明	85
合計	1,530

標本数	2,986
回収数	1,530
回収率	51.2%

6. 集計結果を見る上での注意事項

- (1) 表、グラフのnまたは、() 内の数字は、回答者数のことであり、回答はすべてnを基数とした百分率で表わし、小数点第2位を四捨五入した。このため、百分率の合計が100%にならない場合がある。
- (2) 集計結果の表やグラフは、レイアウトの都合上、回答の選択肢の言葉を短縮して表現している場合がある。
- (3) 回答の比率は、その質問の回答者数を基数として算出した。複数回答の設問は100%を超える場合がある。
- (4) 回答数が小さいものについては、比率が動きやすく分析には適さないため、参考として示すにとどめる。
- (5) 今回の調査結果による標本誤差は下記のとおりである。例えば、回答者数が1,530であり、回答比率が50%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±2.55以内(47.45%～52.55%)とみることができる。

<標準誤差の表>

回答比率 回答者数	10%または 90%程度	20%または 80%程度	30%または 70%程度	40%または 60%程度	50%程度
1,530	±1.53	±2.04	±2.34	±2.50	±2.55

$$\text{※標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{\text{回答比率} (1 - \text{回答比率})}{\text{回答者数}}}$$

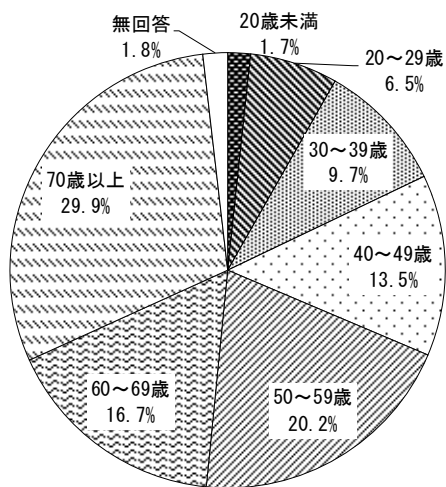
※標本誤差とは、母集団からある数の標本を選ぶとき、選ぶ組み合わせによって統計量がどの程度ばらつくかを、すべての組み合わせについての標準偏差で表したものをいう。

Ⅱ 回答者の属性

Ⅱ 回答者の属性

1 年齢

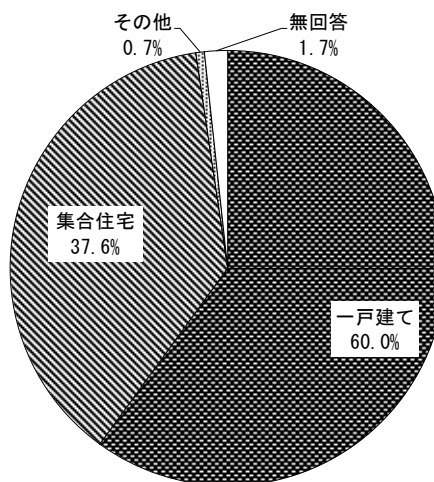
選択肢	回答件数	比率
20歳未満	26	1.7%
20～29歳	100	6.5%
30～39歳	148	9.7%
40～49歳	206	13.5%
50～59歳	309	20.2%
60～69歳	255	16.7%
70歳以上	458	29.9%
無回答	28	1.8%
合 計	1,530	100.0%



n=1,530

2 住居形態

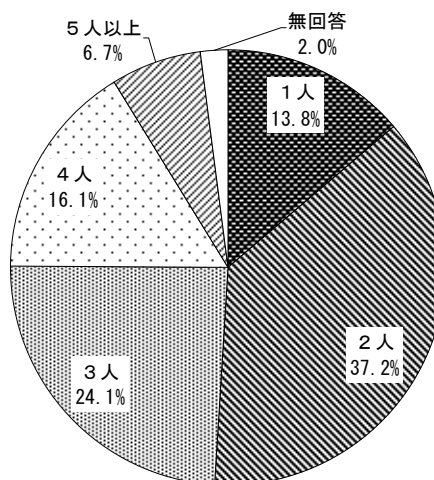
選択肢	回答件数	比率
一戸建て	918	60.0%
集合住宅	576	37.6%
その他	10	0.7%
無回答	26	1.7%
合 計	1,530	100.0%



n=1,530

3 居住（世帯）人数

選択肢	回答件数	比率
1人	211	13.8%
2人	569	37.2%
3人	369	24.1%
4人	247	16.1%
5人以上	103	6.7%
無回答	31	2.0%
合 計	1,530	100.0%

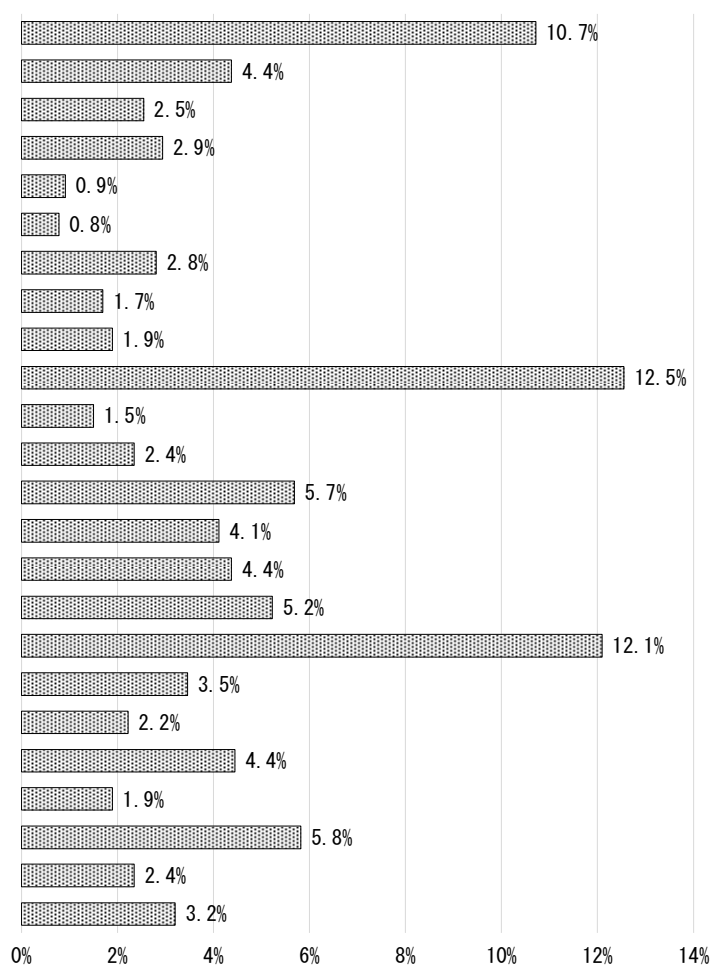


n=1,530

4 居住地区

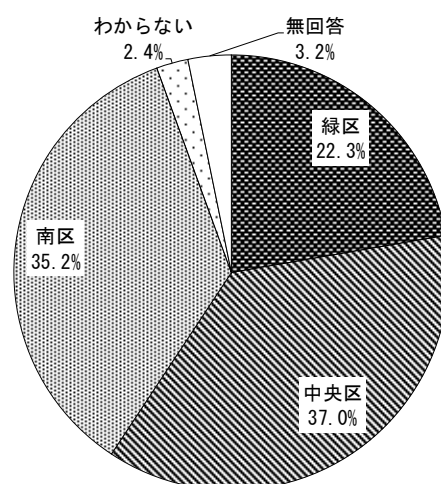
n=1,530

選択肢	回答件数	比率
橋本地区	164	10.7%
大沢地区	67	4.4%
城山地区	39	2.5%
津久井地区	45	2.9%
相模湖地区	14	0.9%
藤野地区	12	0.8%
小山地区	43	2.8%
清新地区	26	1.7%
横山地区	29	1.9%
中央地区	192	12.5%
星が丘地区	23	1.5%
光が丘地区	36	2.4%
大野北地区	87	5.7%
田名地区	63	4.1%
上溝地区	67	4.4%
大野中地区	80	5.2%
大野南地区	185	12.1%
麻溝地区	53	3.5%
新磯地区	34	2.2%
相模台地区	68	4.4%
相武台地区	29	1.9%
東林地区	89	5.8%
わからない	36	2.4%
無回答	49	3.2%
合 計	1,530	100.0%



4-1 区別

選択肢	回答件数	比率
緑区	341	22.3%
中央区	566	37.0%
南区	538	35.2%
わからない	36	2.4%
無回答	49	3.2%
合 計	1,530	100.0%



n=1,530

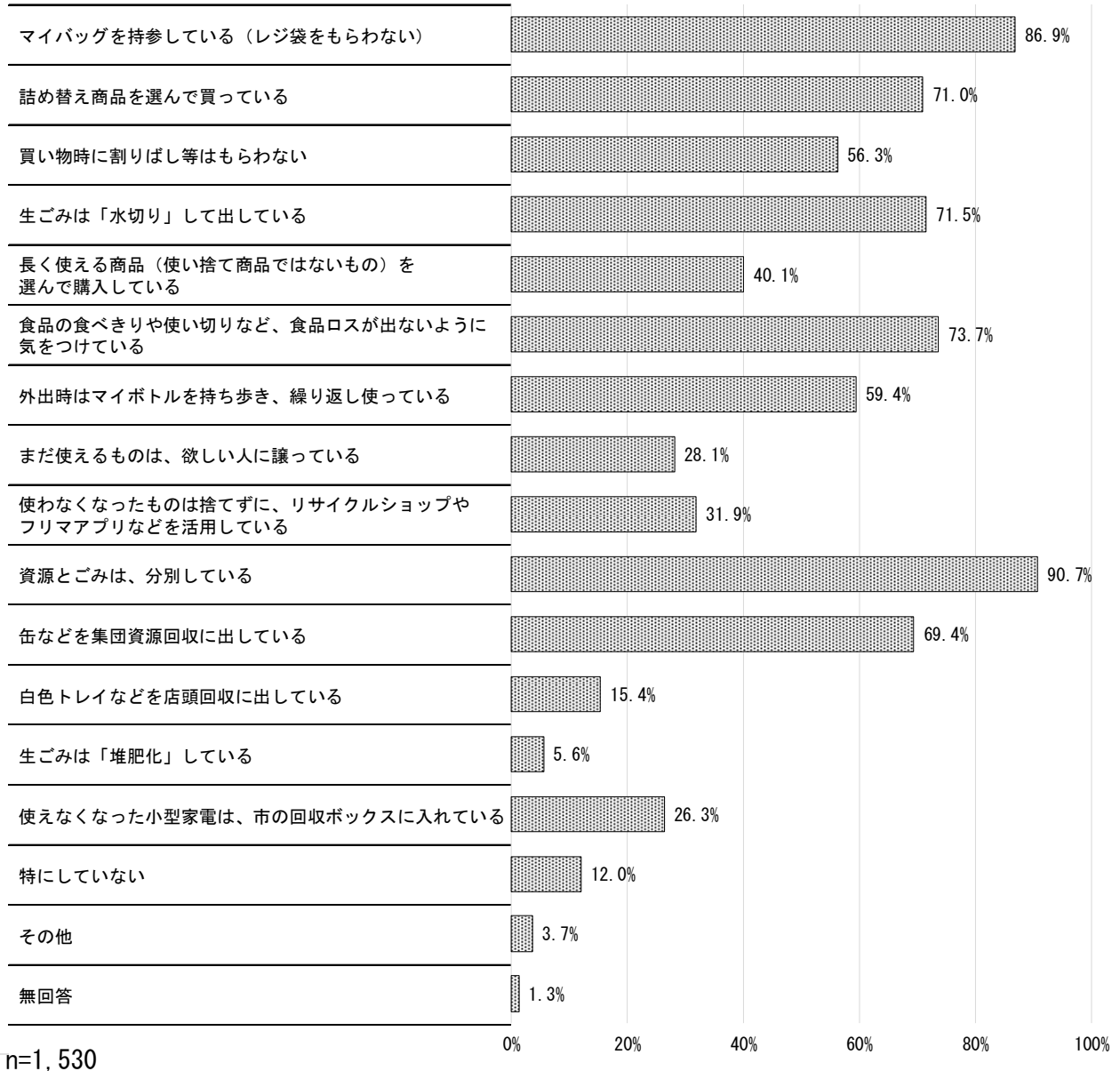
Ⅲ 調 査 結 果

Ⅲ 調査結果

1 家庭ごみに関する興味・関心について

(1) ごみ削減に向けた行動について

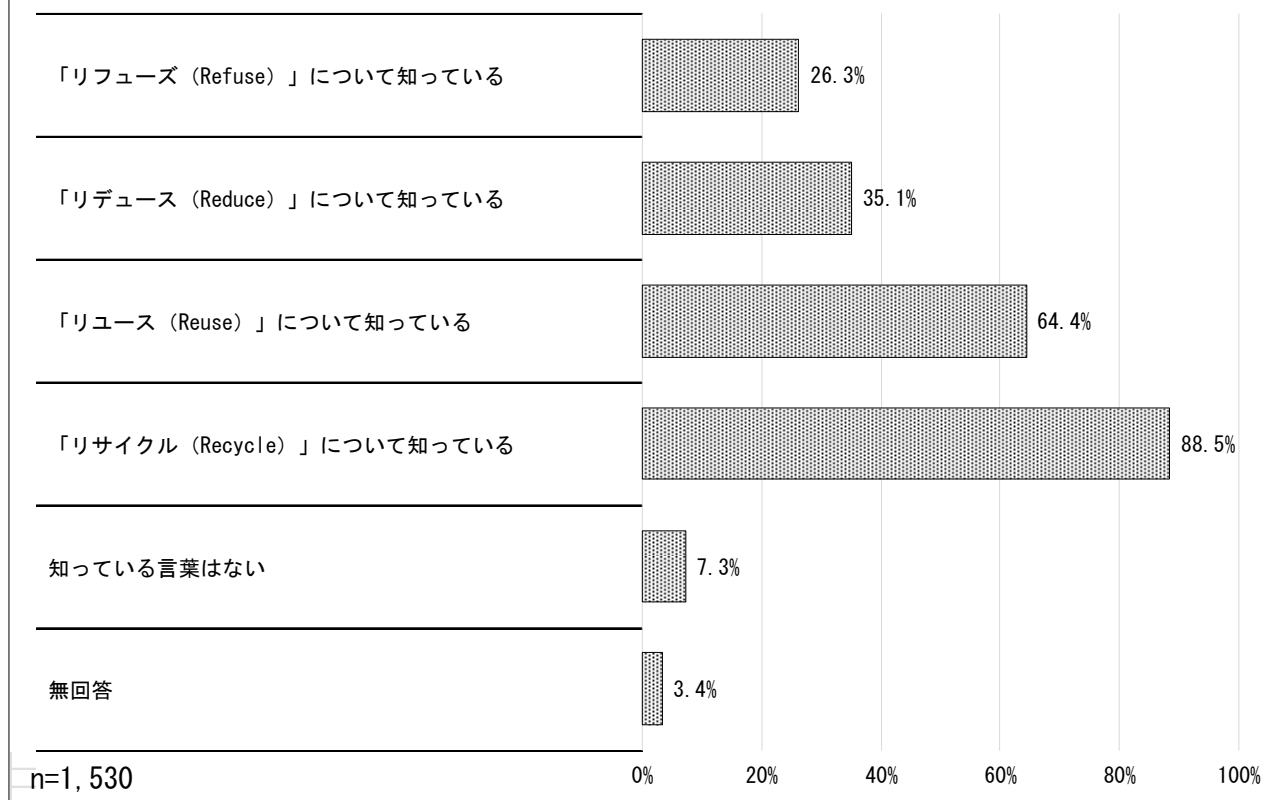
問1 ごみを減らすためにあなたが日頃から心がけていることや工夫していることは何ですか。(〇はいくつでも可)



ごみ削減に向けた行動について、「資源とごみは、分別している」（90.7%）が9割を超えて最も高く、次いで、「マイバッグを持参している（レジ袋をもらわない）」（86.9%）が8割半ばを超える結果となっている。一方で、「生ごみは「堆肥化」している」（5.6%）、「白色トレイなどを店頭回収に出している」（15.4%）は実施率が低い結果となっている。

(2) 4 Rの認知度

問2 問1に書かれている行動は4つの取組みに分けられ、4つのRから「4 R (ふぉーあーる)」と呼ばれています。あなたは、市が推進している「4 R」について知っていますか。(〇はいくつでも可)

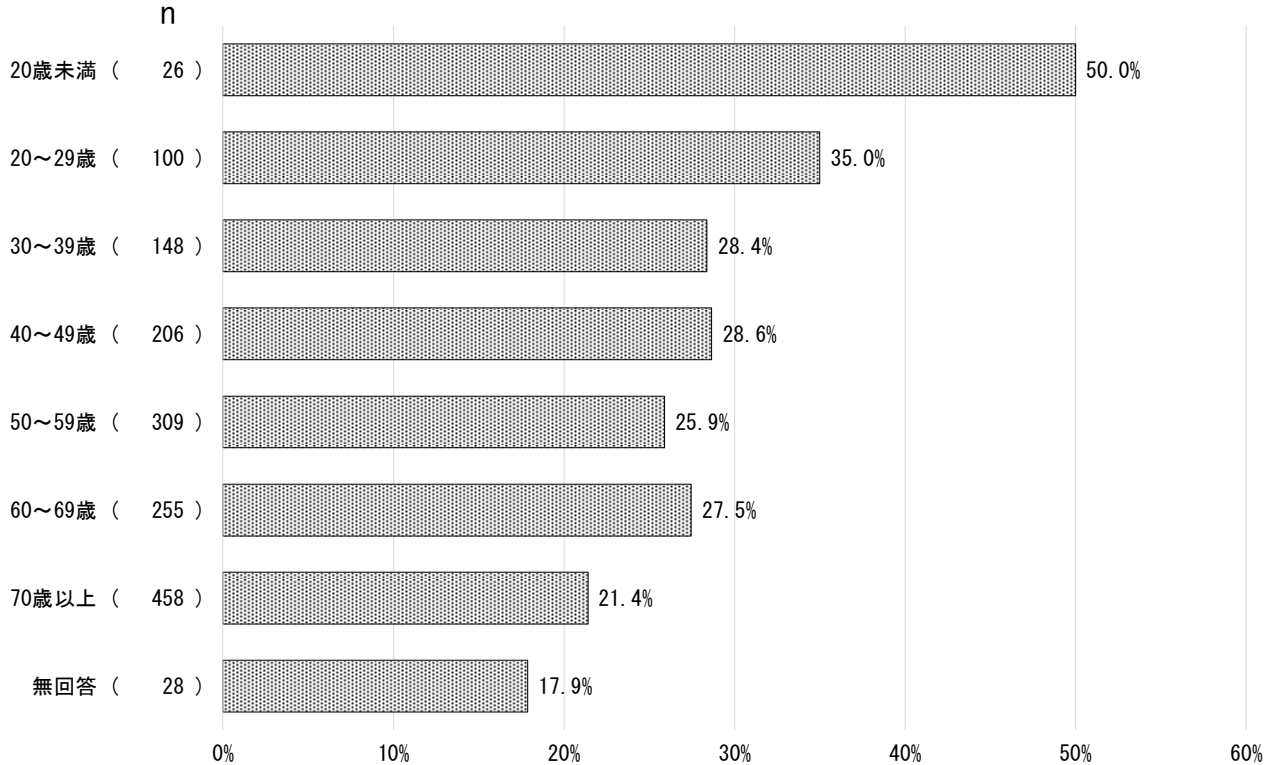


4 Rについて、「リサイクル (Recycle) について知っている」(88.5%) が9割近くと最も高くなっている。次いで、「リユース (Reuse) について知っている」(64.4%)、「リデュース (Reduce) について知っている」(35.1%)、「リフューズ (Refuse) について知っている」(26.3%) と続いている。

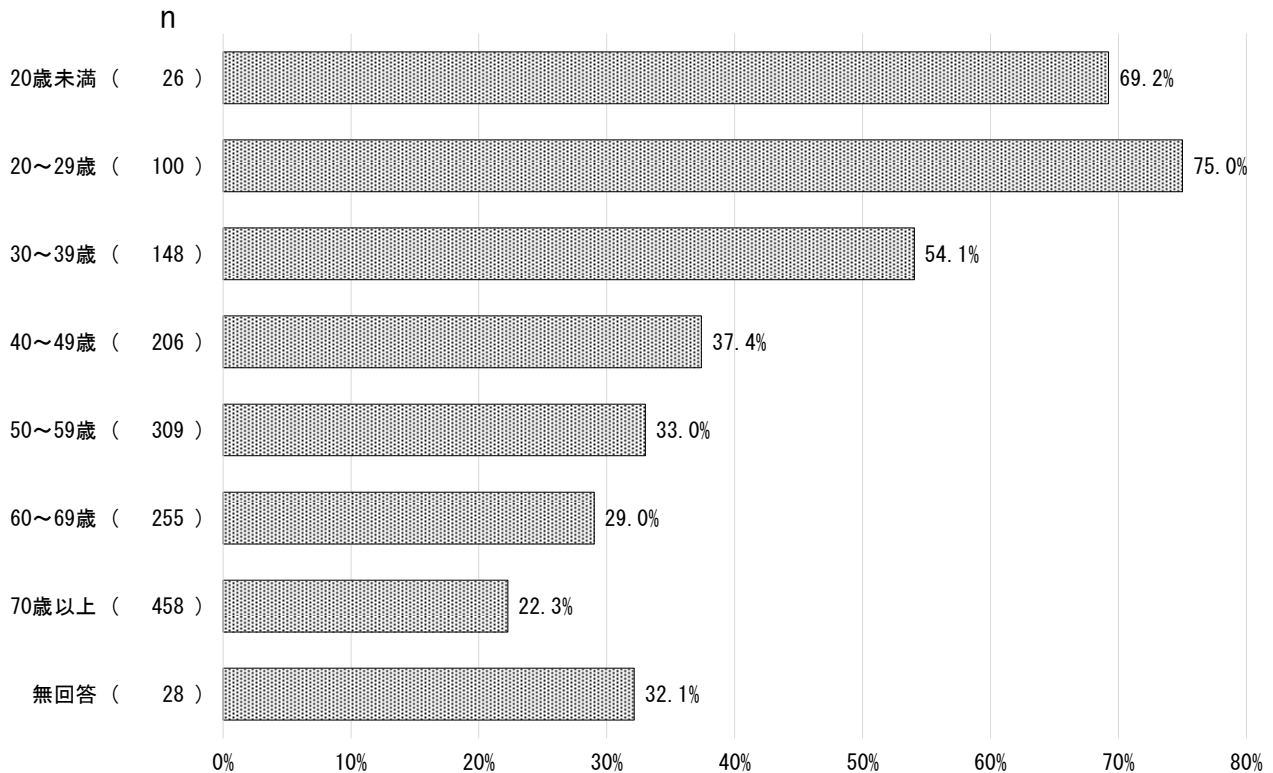
<年齢別結果>

年齢別でみると、「リサイクル」(94.0%)は20代が9割半ばと最も認知度が高く、全世代に浸透している。一方で、「リフューズ」「リデュース」「リユース」は若年層ほど認知度が高く、20代では「リデュース」が7割半ばとなっているが、年齢が高くなるにつれ、認知度が低くなる傾向がある。

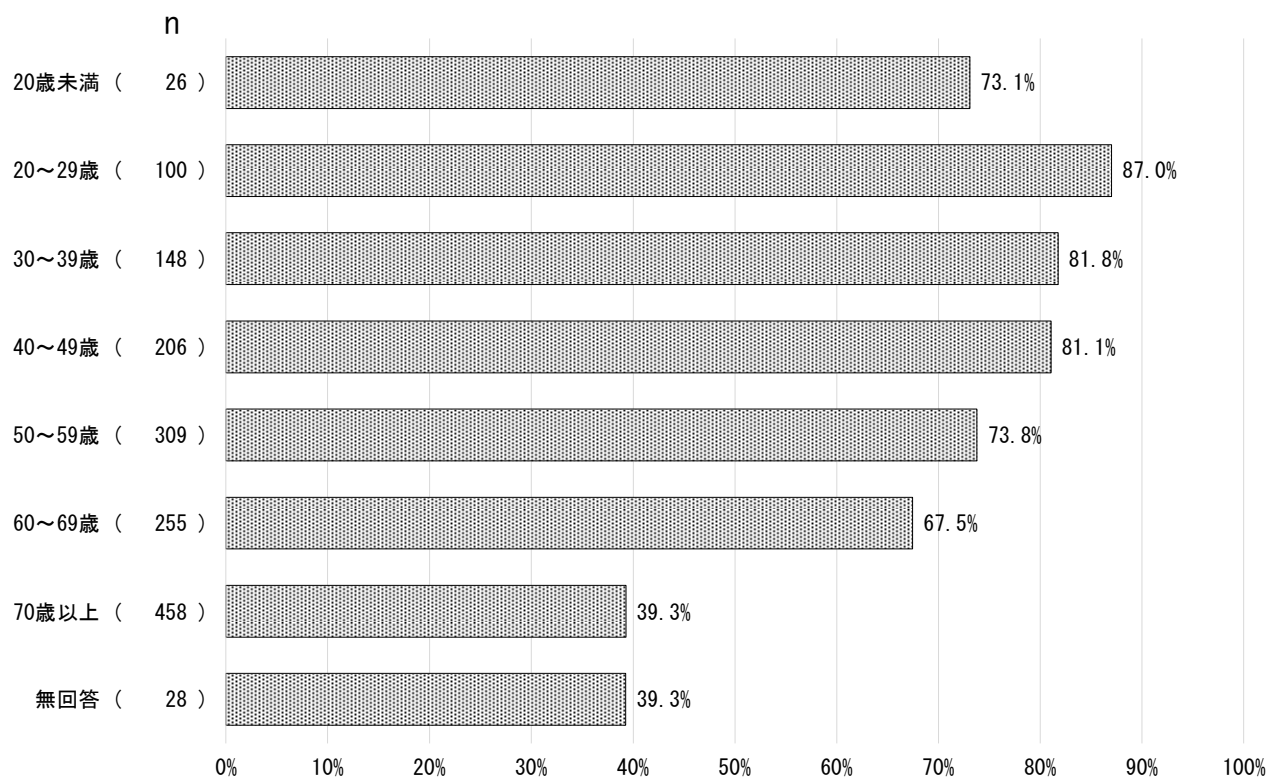
□「リフューズ (Refuse)」について知っている



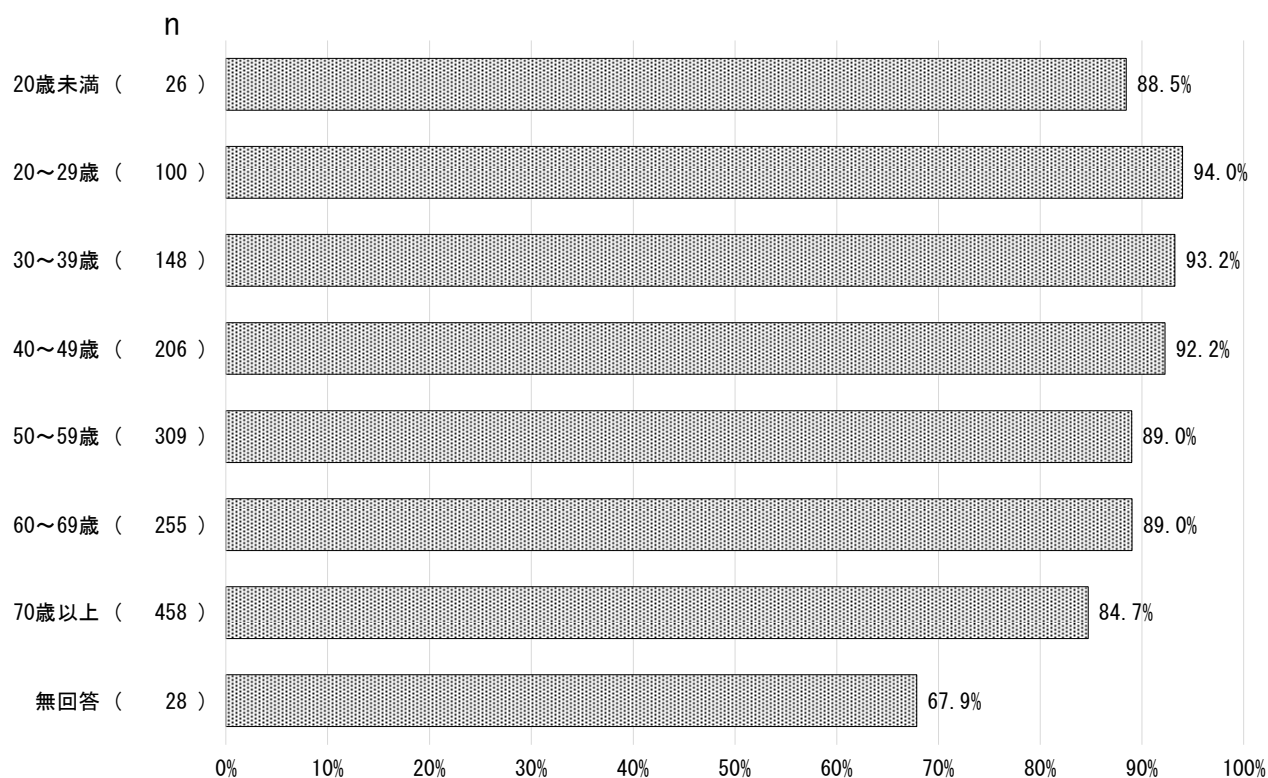
□「リデュース (Reduce)」について知っている



□「リユース (Reuse)」について知っている

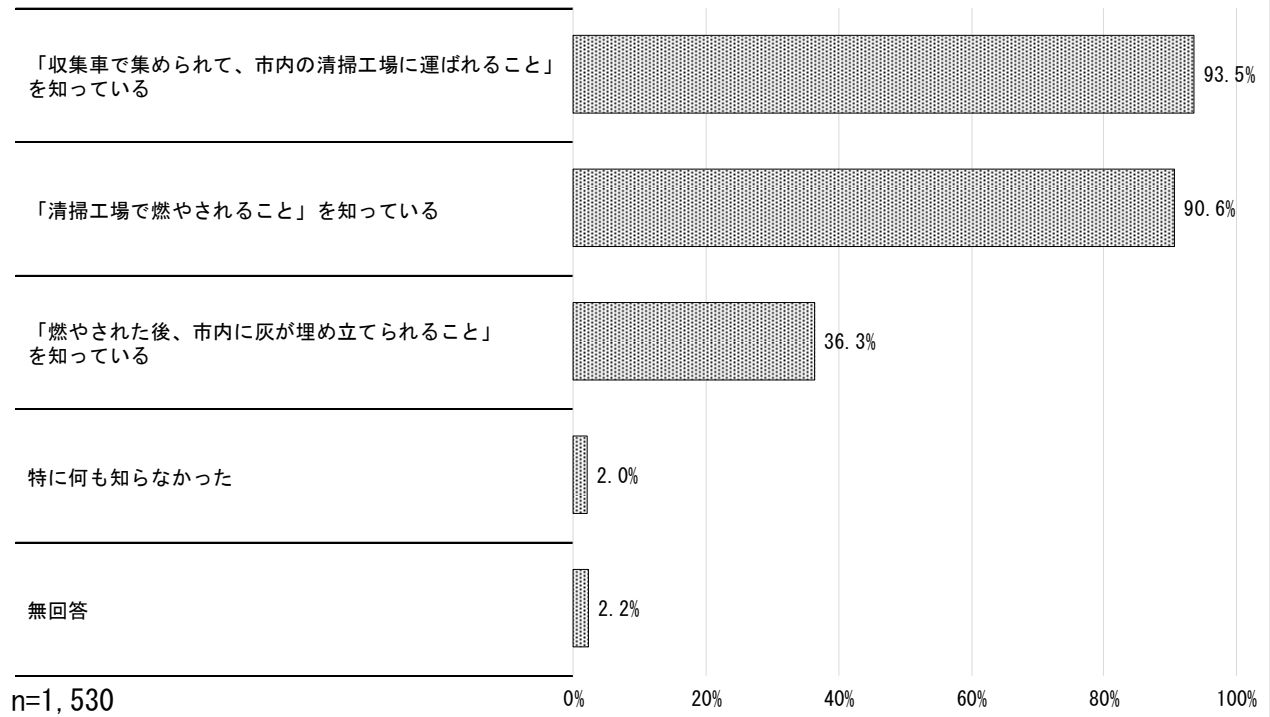


□「リサイクル (Recycle)」について知っている



(3) 捨てたごみの処理への認知度

問3 あなたは、ごみ集積場所に捨てた家庭ごみが、どのように処理されるのか知っていますか。(〇はいくつでも可)

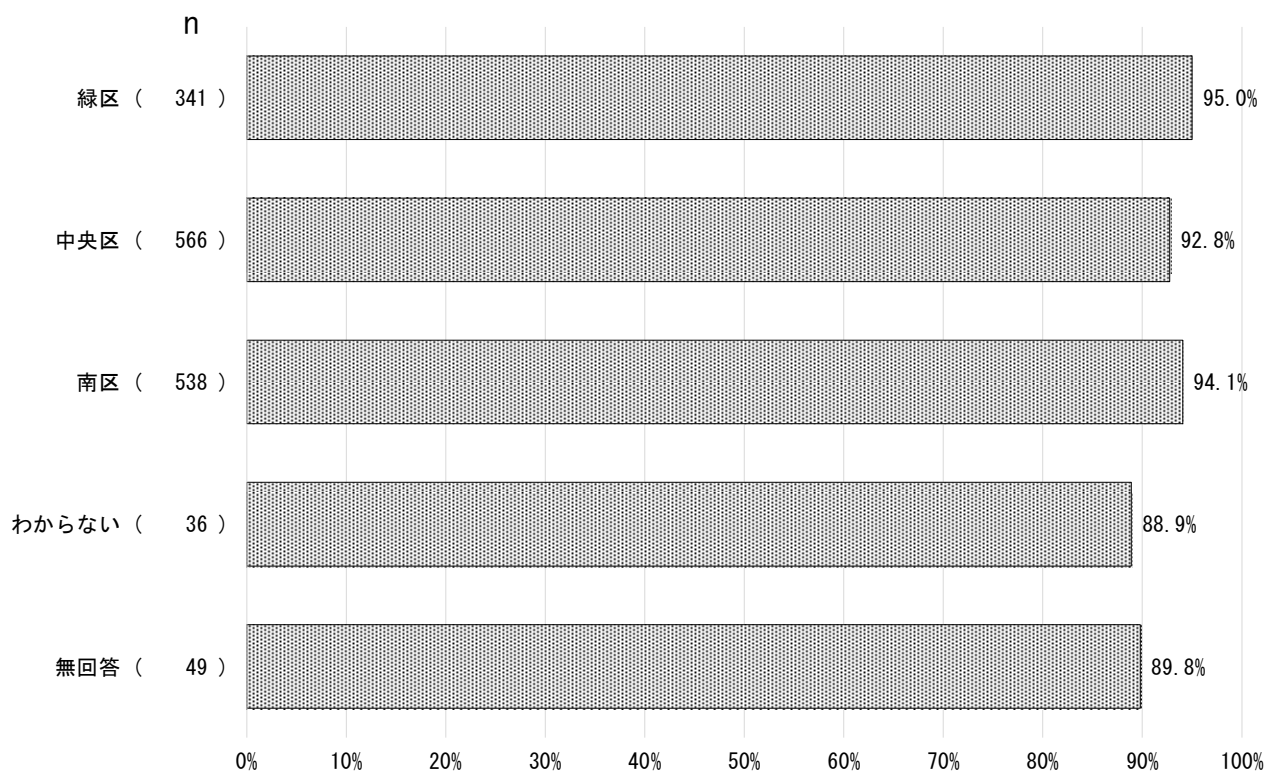


捨てたごみの処理について、「収集車で集められて、市内の清掃工場に運ばれること」を知っている(93.5%)が9割半ば近くと最も高くなっている。次いで、「清掃工場で燃やされること」を知っている(90.6%)、「燃やされた後、市内に灰が埋め立てられること」を知っている(36.3%)、「特に何も知らなかった」(2.0%)と続いている。

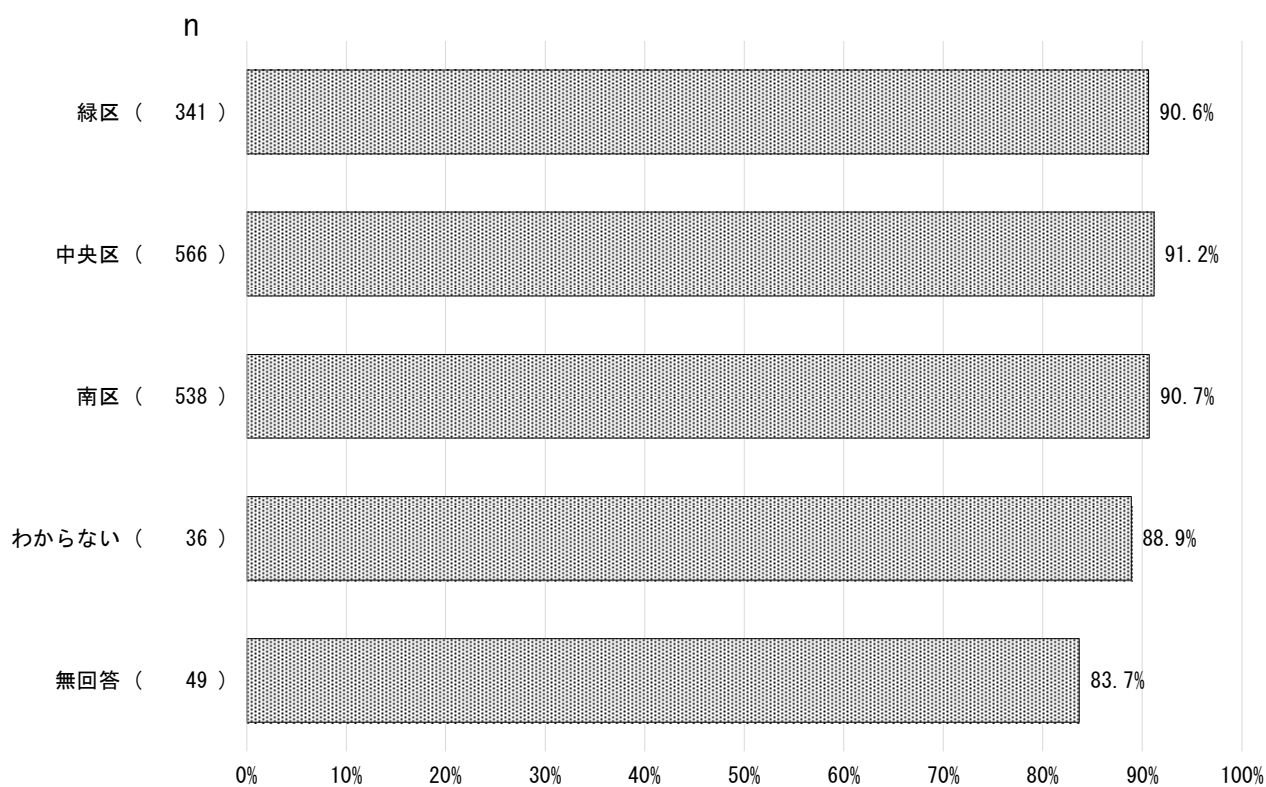
<区別結果>

区別で集計しても、大きな違いはみられない。

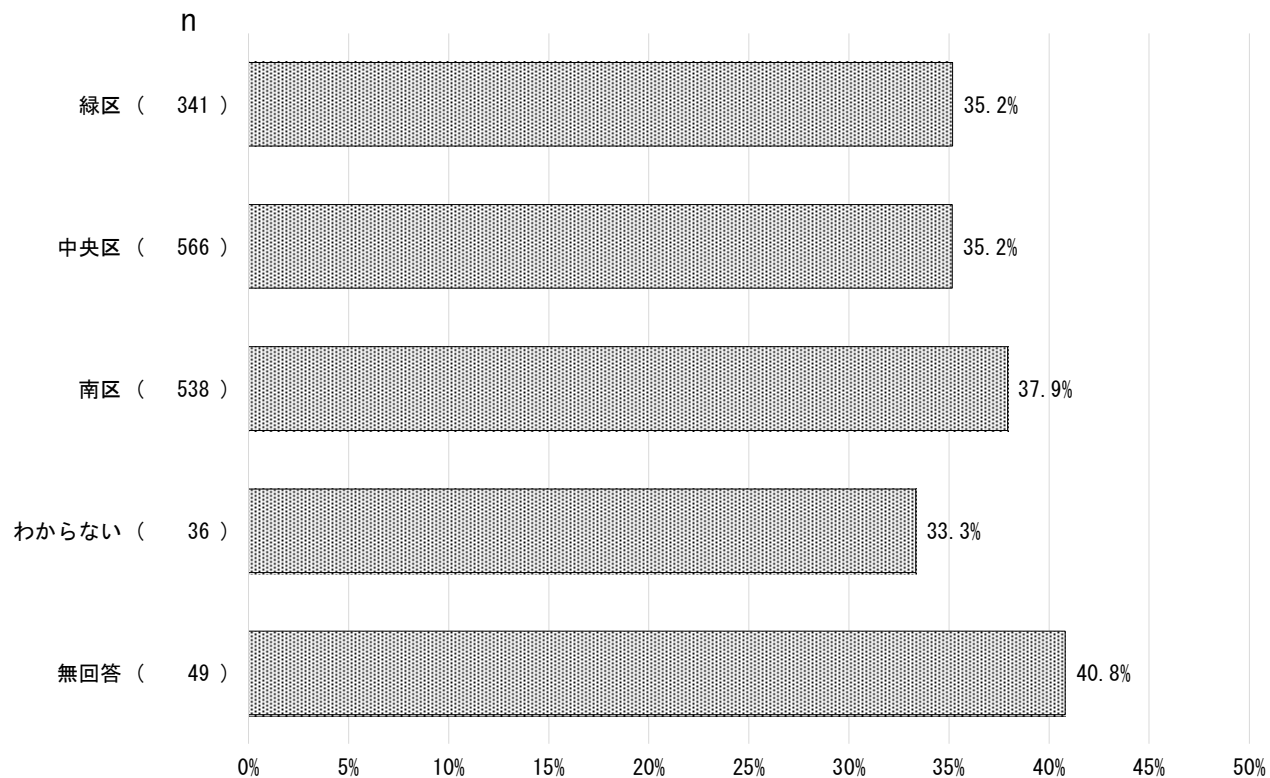
□「収集車で集められて、市内の清掃工場に運ばれること」を知っている



□「清掃工場で燃やされること」を知っている

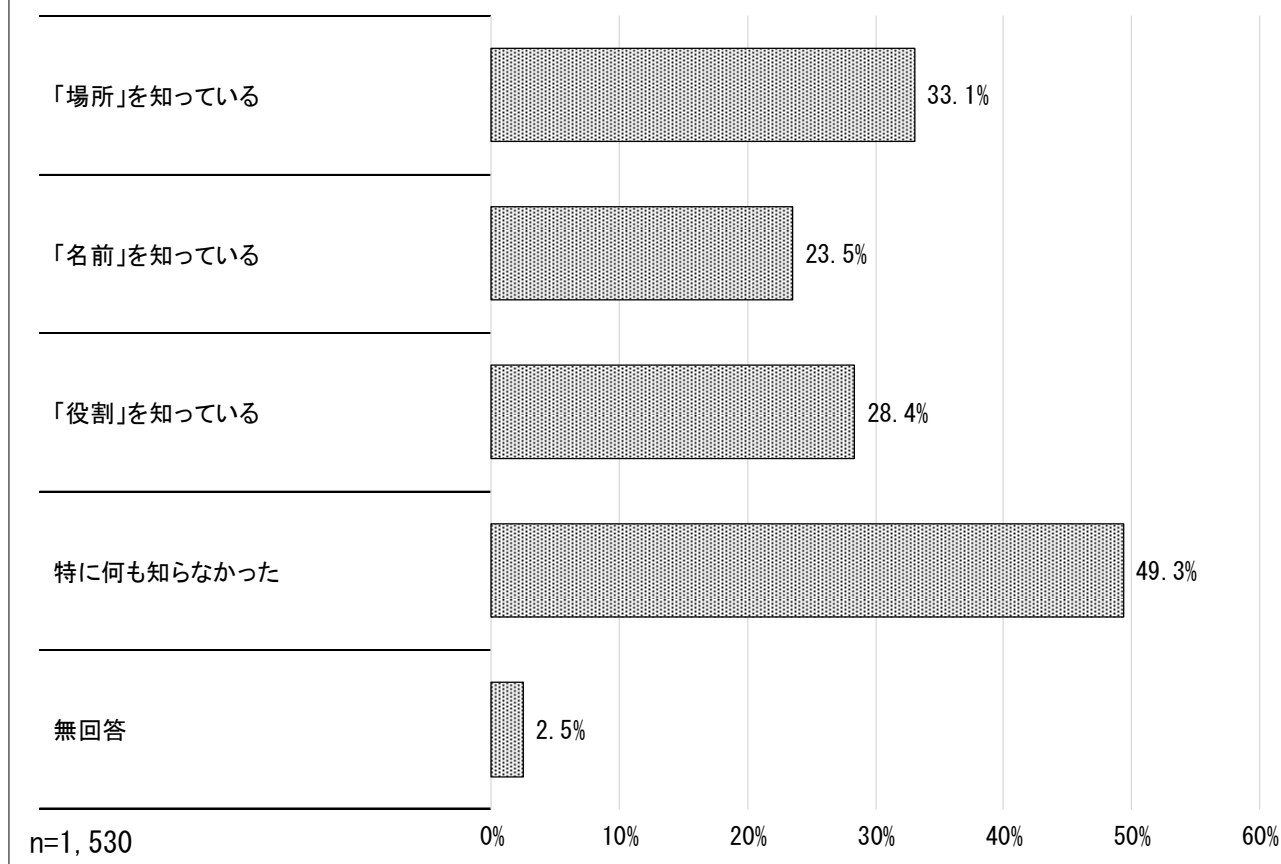


□「燃やされた後、市内に灰が埋め立てられること」を知っている



(4) 最終処分場の認知度

問4 清掃工場で燃やされた後に出た灰などが埋め立てられるのは、南区麻溝台にある「一般廃棄物最終処分場（愛称：シゲンジャーパーク。以下、「最終処分場」とします。）」です。このように家庭から出たごみが燃やされて埋められるまでの処理は、すべて市内で完結しています。あなたは市の「最終処分場」についてどの程度知っていますか。
（○はいくつでも可）

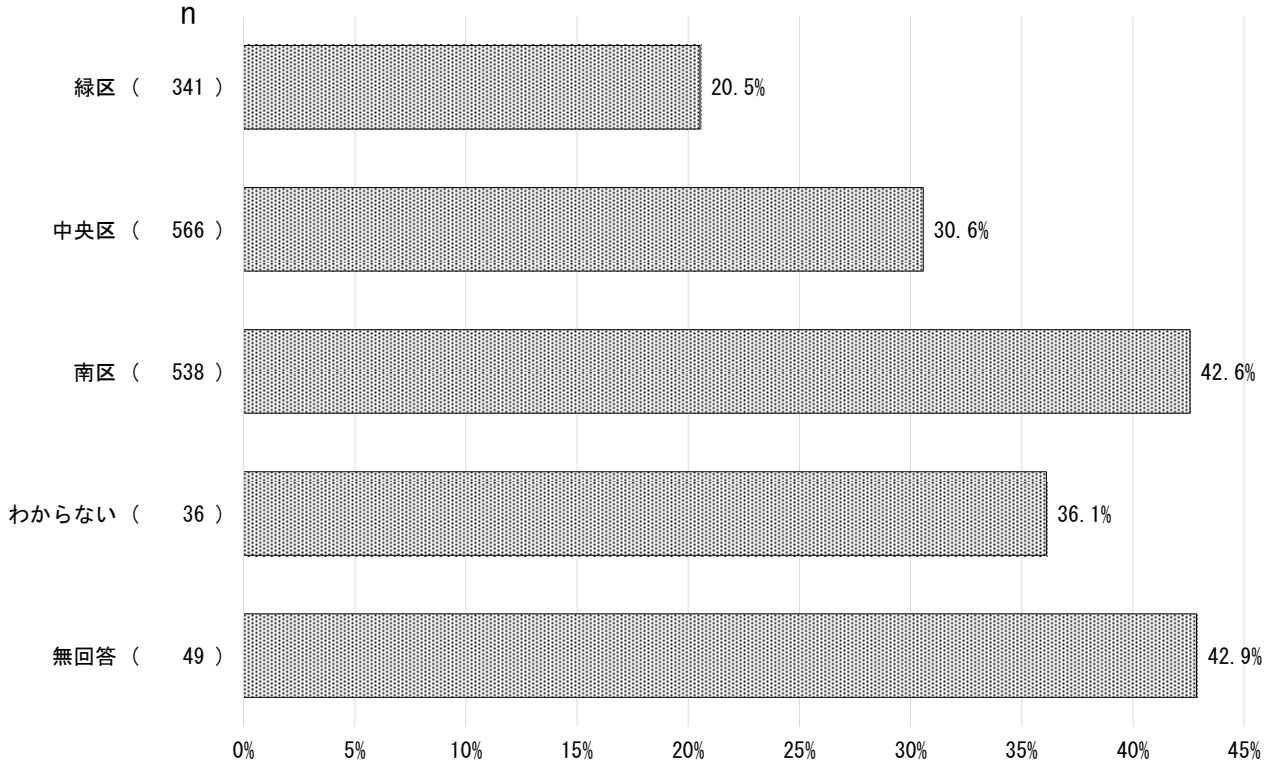


最終処分場について、「特に何も知らなかった」（49.3%）が5割近くと最も高くなっている。次いで、「場所」を知っている（33.1%）、「役割」を知っている（28.4%）、「名前」を知っている（23.5%）と続いている。

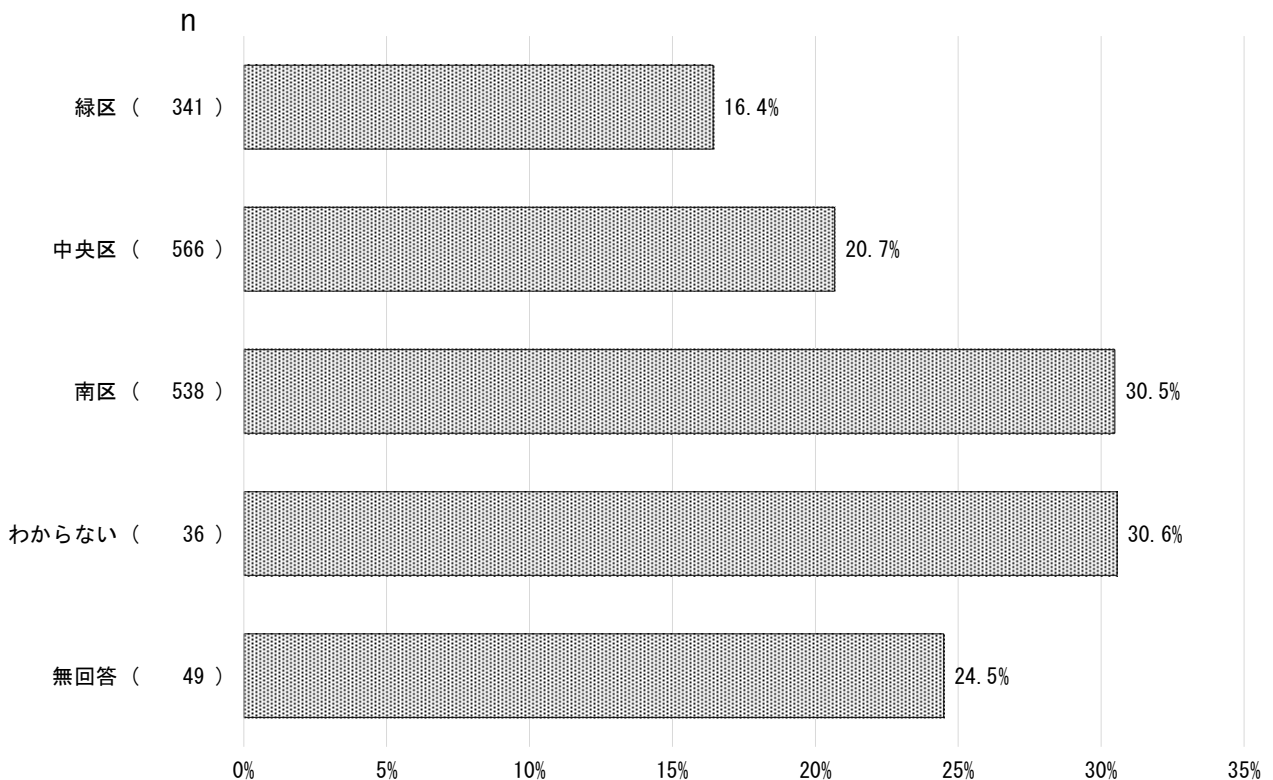
<区別結果>

区別でみると、3区の中で南区の「場所」を知っている（42.6%）が4割半ば近くと最も高い結果となっている。また、「名前」を知っている（30.5%）も南区で3割を超えて高い結果となっている。さらに、「役割」を知っている（31.0%）でも南区が3割を超えた結果となっている。

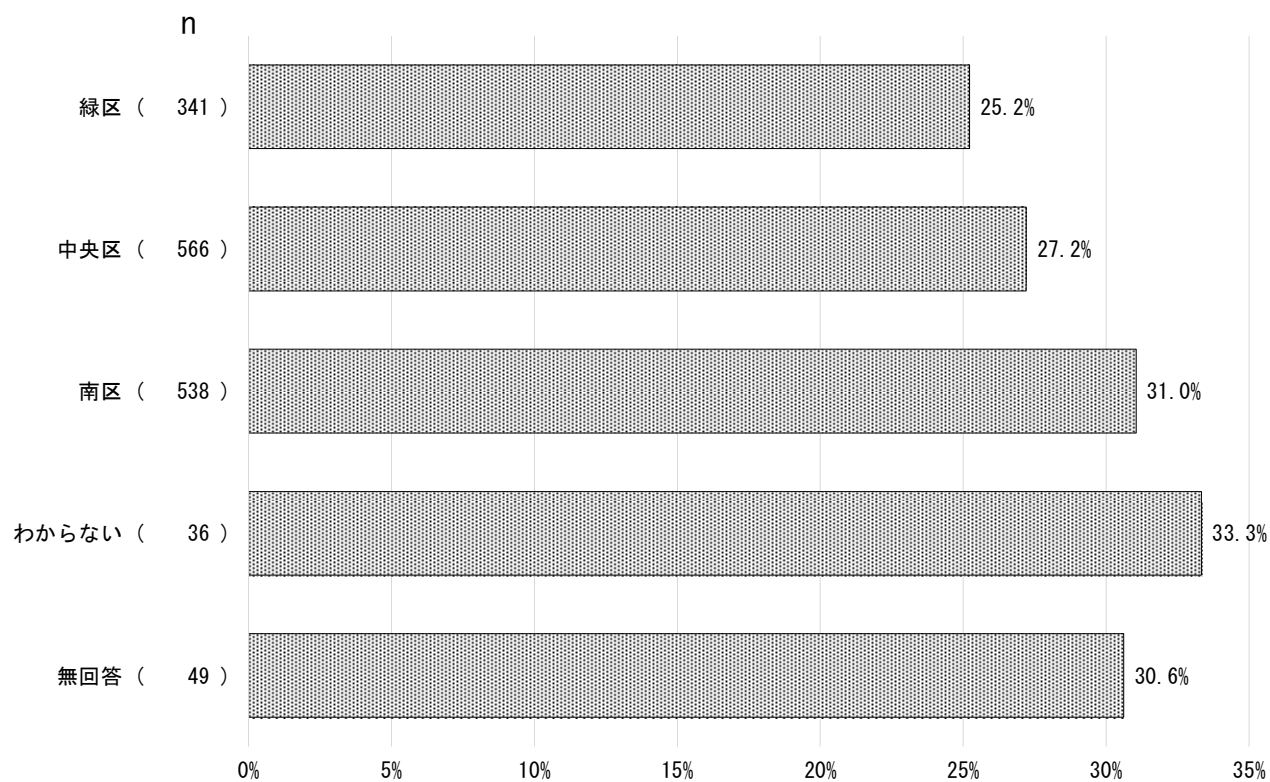
□「場所」を知っている



□「名前」を知っている

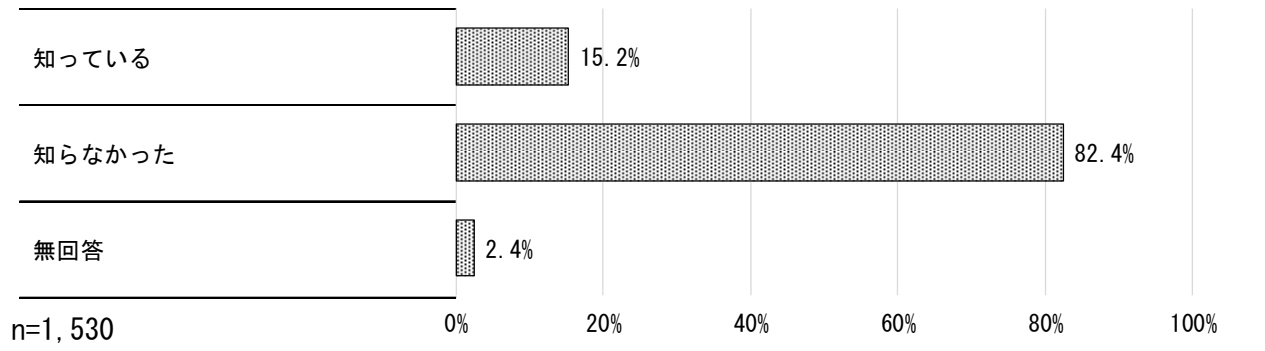


□「役割」を知っている



(5) 最終処分場における状況の認知度

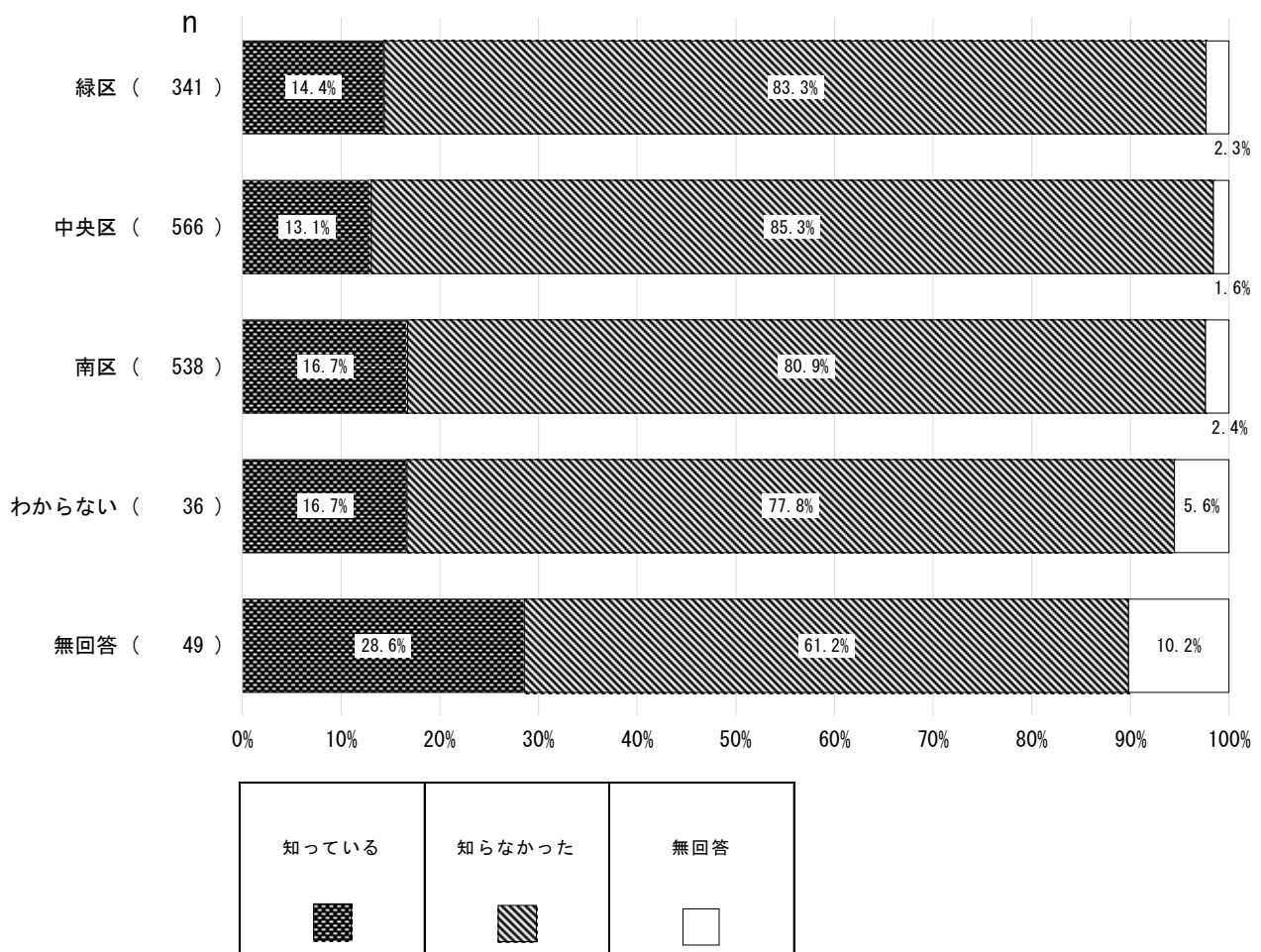
問5 市の最終処分場は、現在のペースで埋立てを行うと、2037年（令和19年）頃に満杯になってしまう見込みです。あなたは、このような厳しい状況を知っていますか。（○は1つ）



最終処分場の状況について、「知らなかった」（82.4%）が8割を超えている。一方で、「知っている」（15.2%）は1割半ばという結果となっている。

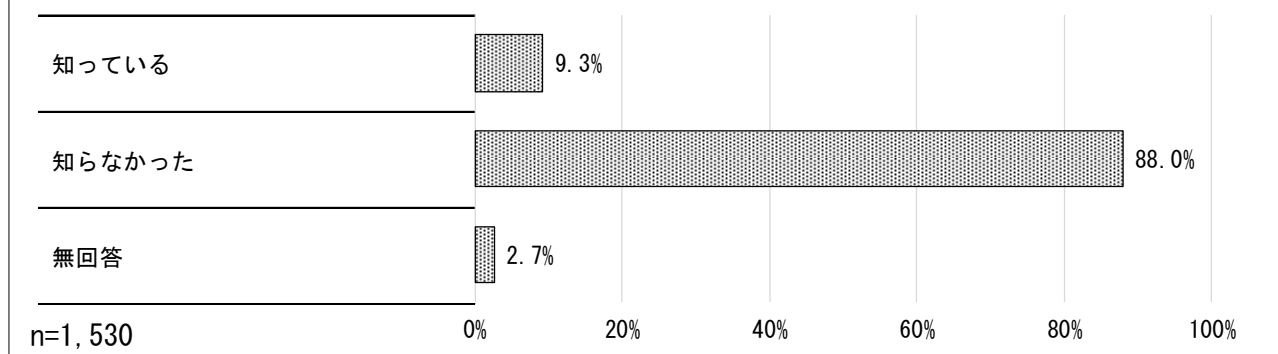
<区別結果>

区別でみると、3区の中で南区の「知っている」（16.7%）が1割半ばと最も高い結果となっている。「知らなかった」はどの地区も8割台となっている。



(6) 次の最終処分場における候補地の認知度

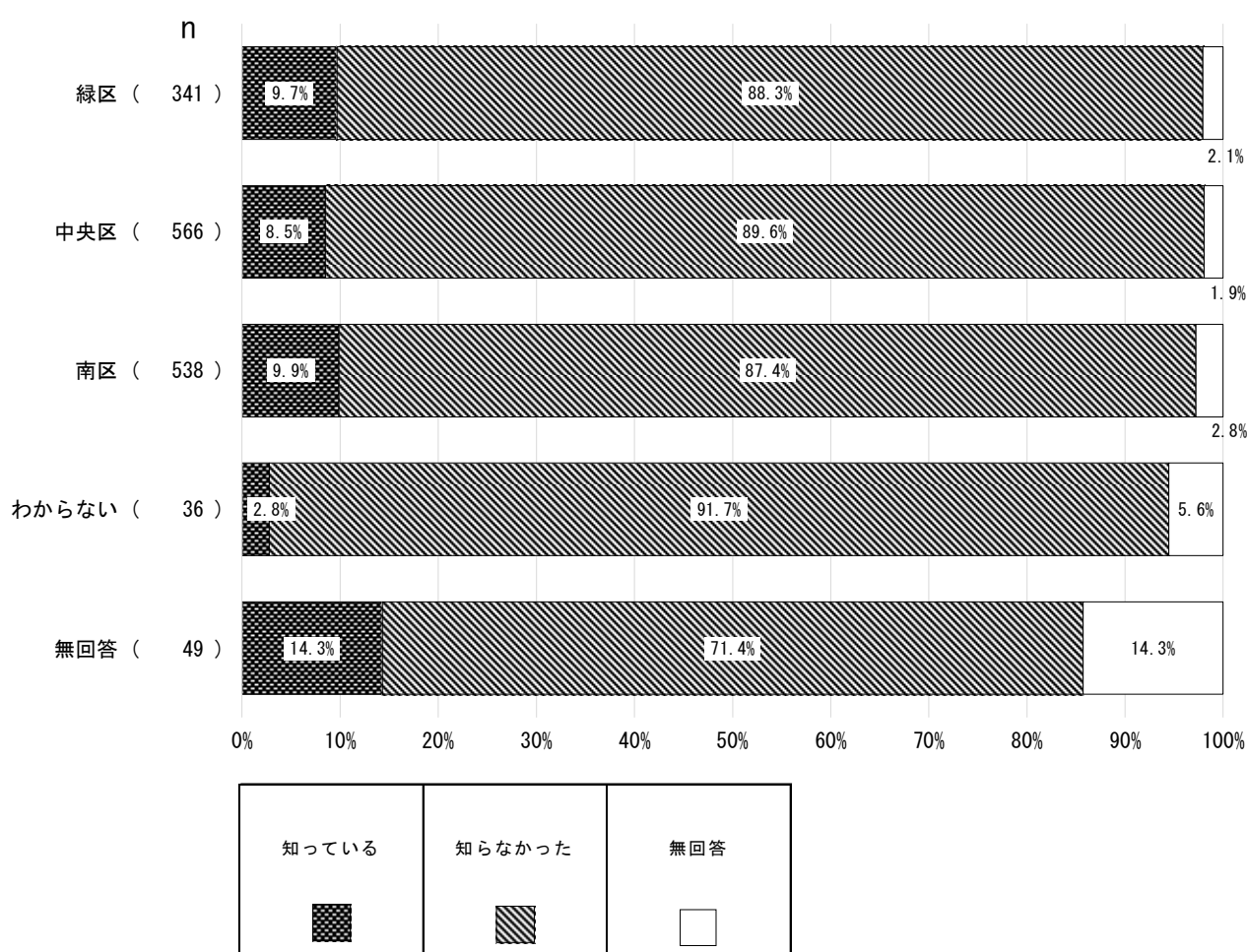
問6 市は、次の最終処分場の整備を検討しています。あなたは、4か所が候補地（緑区根小屋2か所、南区麻溝台2か所）として挙がっていることを知っていますか。（○は1つ）



最終処分場の候補地について、「知らなかった」(88.0%)が9割近くで最も高くなっている。一方で、「知っている」(9.3%)は1割に満たない結果となっている。

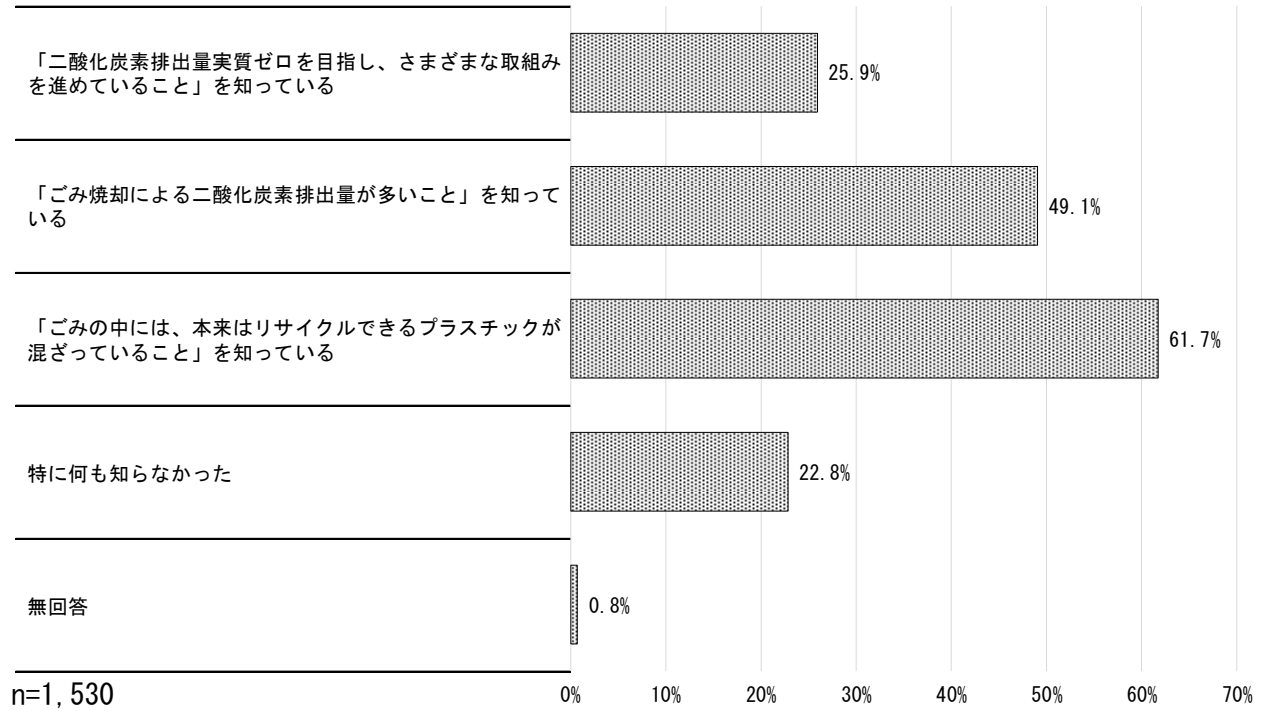
<区別結果>

区別でみると、「知っている」がどの地区も1割に満たない結果となっている。「知らなかった」は8割台となっている。



(7) 脱炭素に関する取組みや現状の認知度

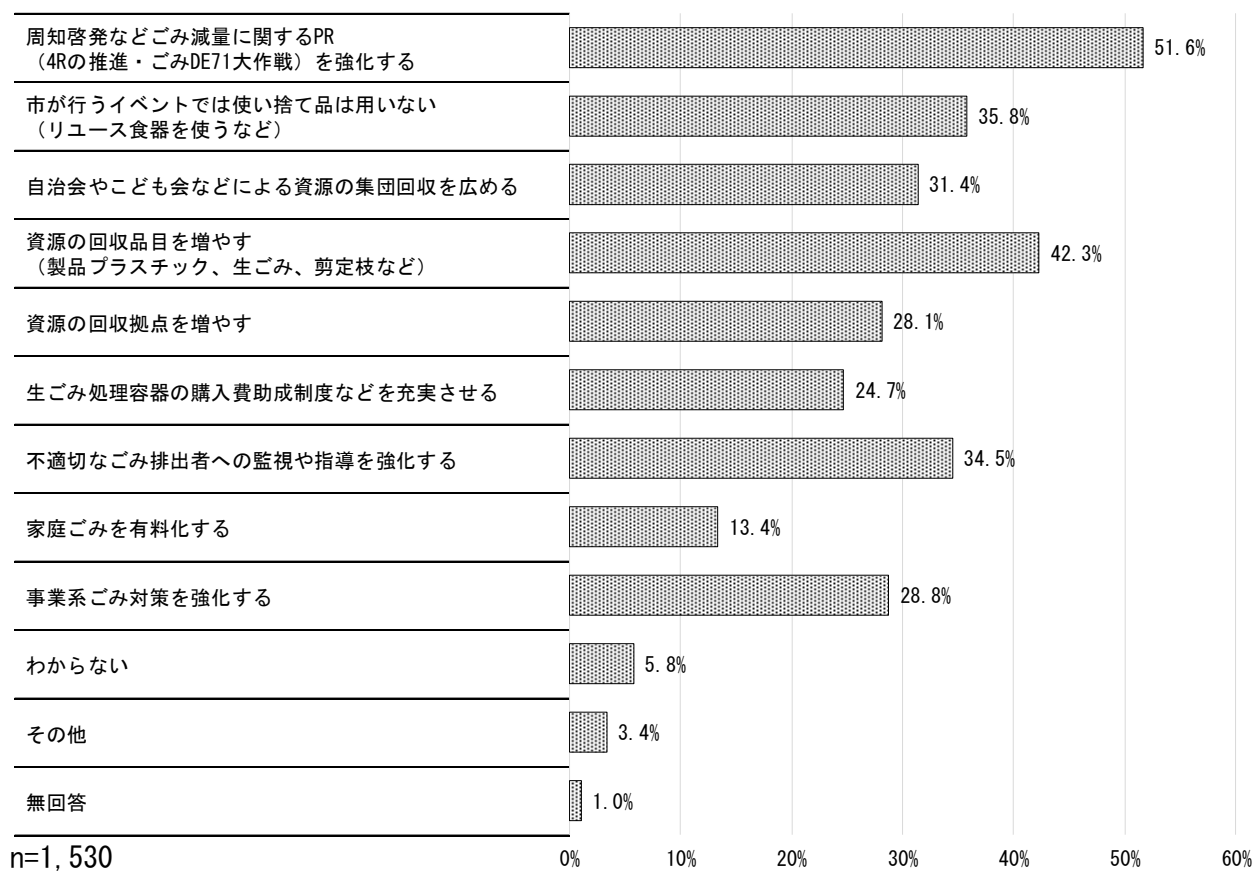
問7 あなたは、市の脱炭素に関する取組みや現状についてどの程度知っていますか。(○はいくつでも可)



脱炭素に関する取組みや現状について、「「ごみの中には、本来はリサイクルできるプラスチックが混ざっていること」を知っている」(61.7%)が6割を超えて最も高くなっている。次いで、「「ごみ焼却による二酸化炭素排出量が多いこと」を知っている」(49.1%)、「「二酸化炭素排出量実質ゼロを目指し、さまざまな取組みを進めていること」を知っている」(25.9%)、「特に何も知らなかった」(22.8%)と続いている。

(8) ごみの減量化に関する今後の取組みへの期待

問8 最終処分場の延命化や二酸化炭素排出量を減らすためには、更なるごみの減量化が不可欠です。このためには、市としてどのような取組みが必要だと思いますか。(〇はいくつでも可)

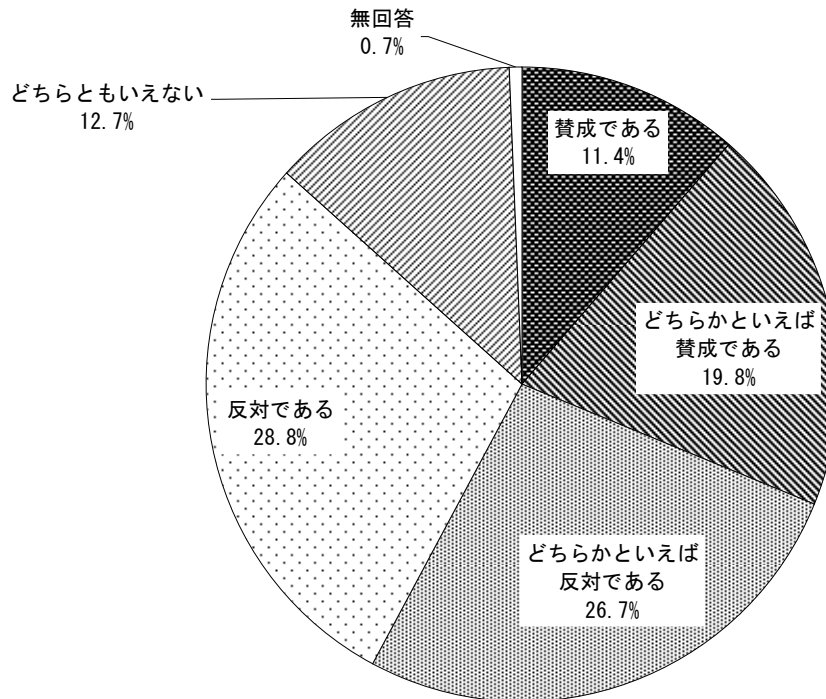


今後の取組みに必要なことについて、「周知啓発などごみ減量に関するPR (4Rの推進・ごみDE71大作戦)を強化する」(51.6%)が5割を超えて最も高くなっている。次いで、「資源の回収品目を増やす (製品プラスチック、生ごみ、剪定枝など)」(42.3%)、「市が行うイベントでは使い捨て品は用いない (リユース食器を使うなど)」(35.8%)、「不適切なごみ排出者への監視や指導を強化する」(34.5%)と続いている。

2 家庭ごみの有料化について

(1) ごみの有料化について

問9 あなたはごみの有料化についてどのように思いますか。(○は1つ)

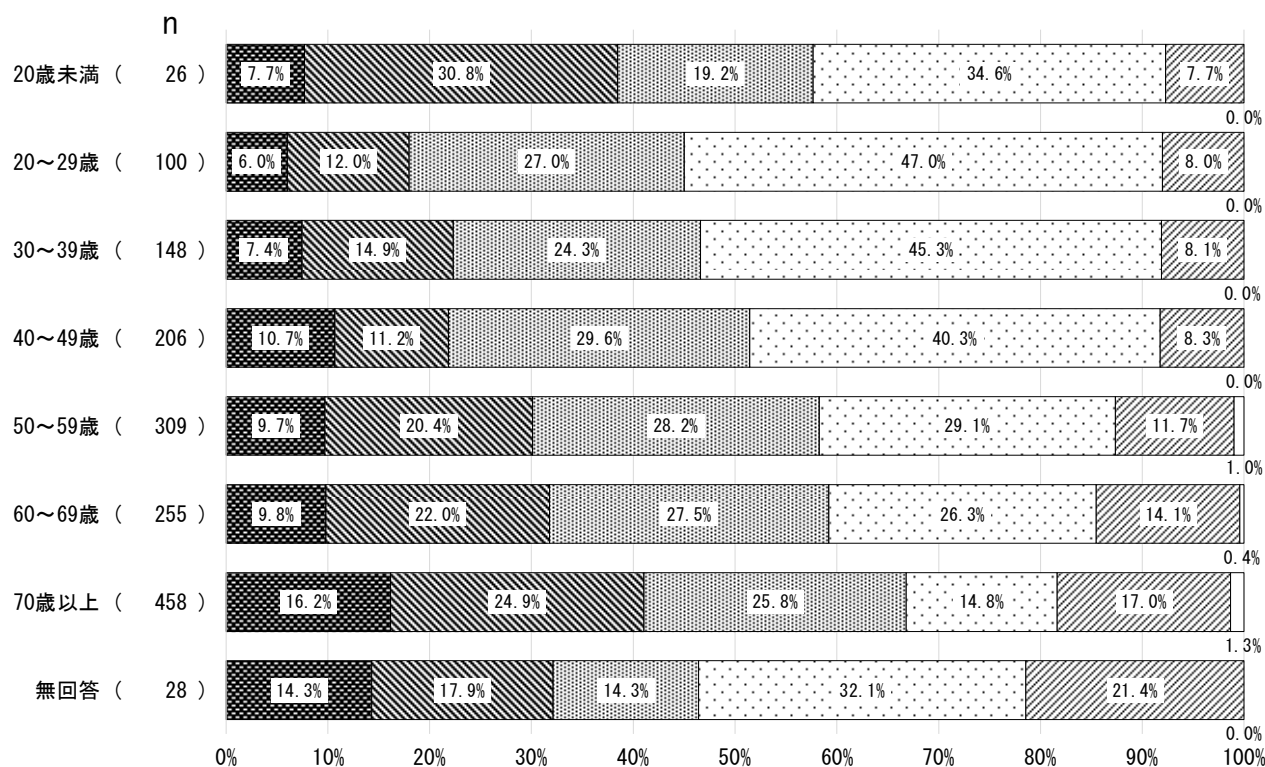


n=1,530

ごみの有料化について、「反対である」(28.8%)と「どちらかといえば反対である」(26.7%)の2つを合わせた《反対(計)》(55.5%)は、5割半ばとなっている。一方で、「賛成である」(11.4%)と「どちらかといえば賛成である」(19.8%)の2つを合わせた《賛成(計)》(31.2%)は、3割を超えた結果となっている。

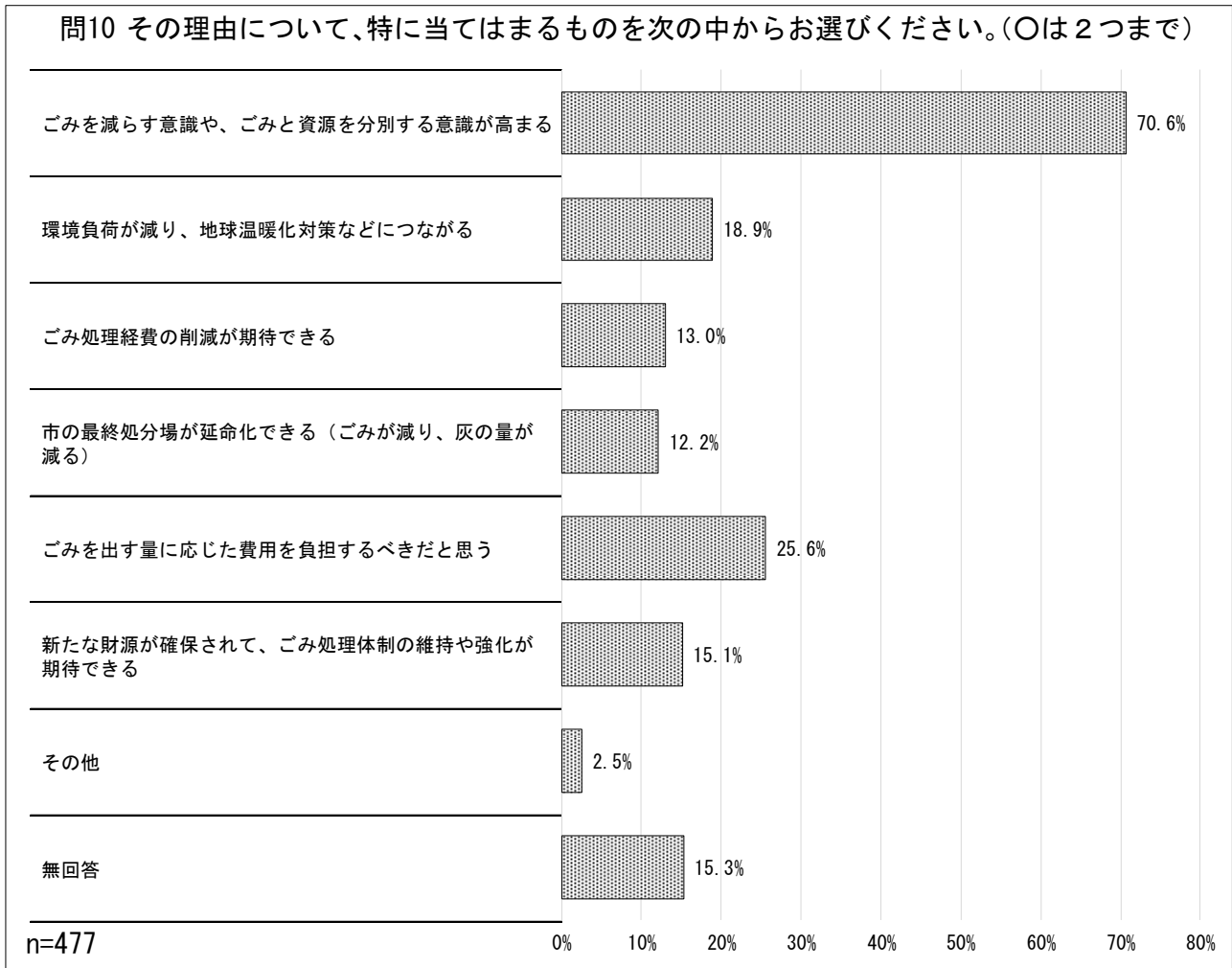
<年齢別結果>

年齢別でみると、《反対(計)》は20代(74.0%)が7割半ばと最も高い結果となっている。次いで、40代(69.9%)が7割近くとなっている。《賛成(計)》は70歳以上(41.1%)が4割を超えて最も高い結果となっている。次いで、20歳未満(38.5%)が4割近くとなっている。



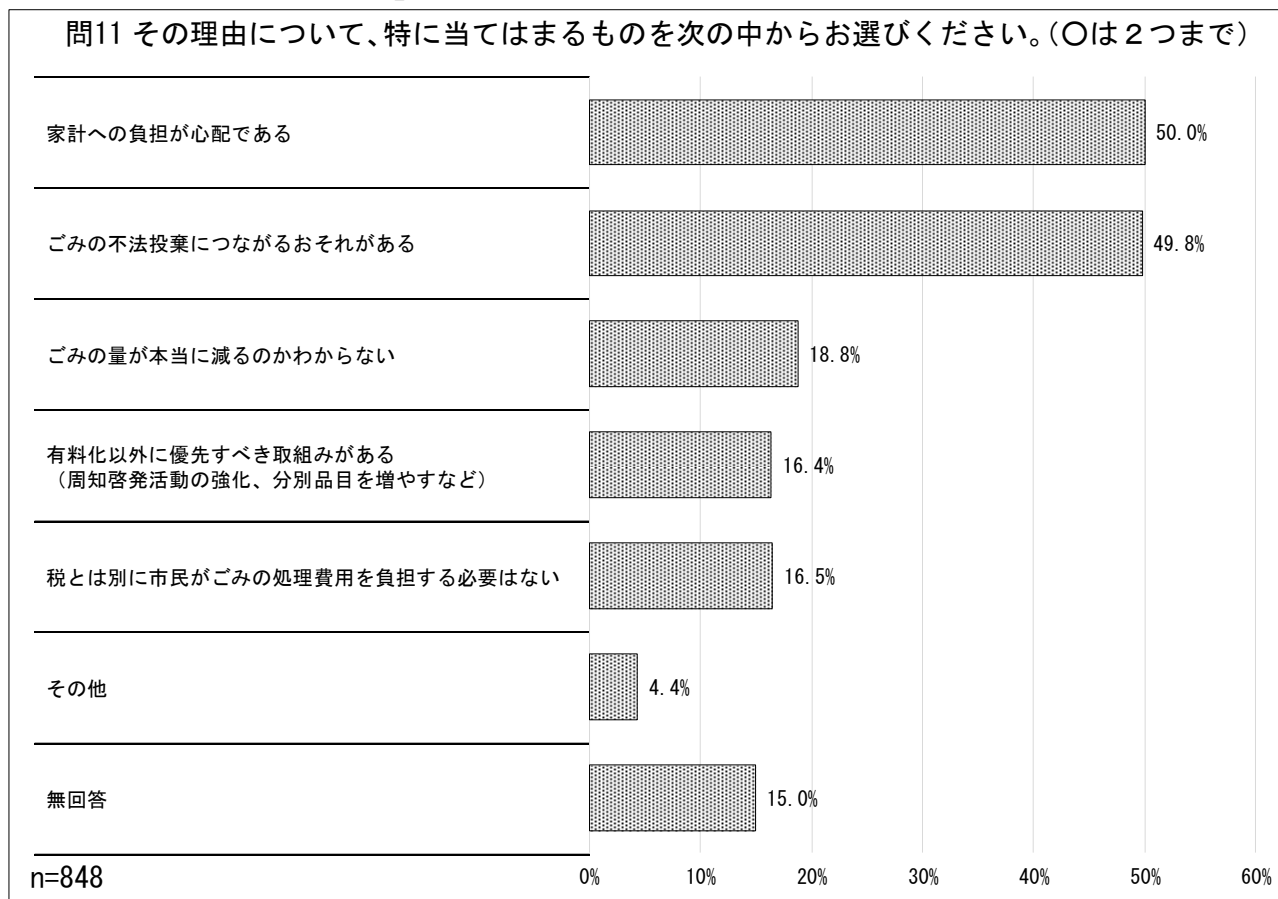
賛成(計)		反対(計)		どちらともいえない	無回答
賛成である	どちらかといえば賛成である	どちらかといえば反対である	反対である		

(1-1) 有料化に「賛成」の理由



有料化に賛成する理由は、「ごみを減らす意識や、ごみと資源を分別する意識が高まる」(70.6%)が7割を超えて最も高くなっている。次いで、「ごみを出す量に応じた費用を負担するべきだと思う」(25.6%)、「環境負荷が減り、地球温暖化対策などにつながる」(18.9%)、「新たな財源が確保されて、ごみ処理体制の維持や強化が期待できる」(15.1%)と続いている。

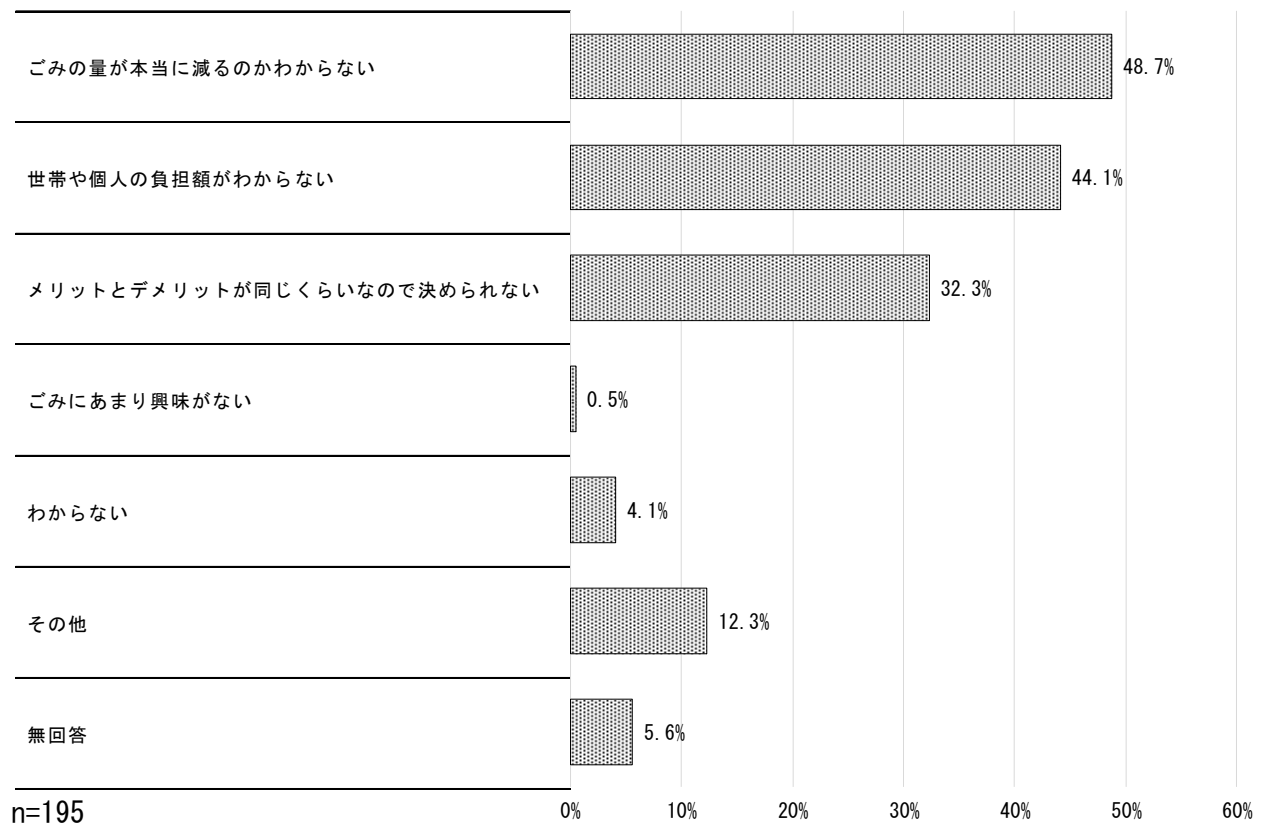
(1-2) 有料化に「反対」の理由



有料化に反対する理由は、「家計への負担が心配である」(50.0%)が5割と最も高くなっている。次いで、「ごみの不法投棄につながるおそれがある」(49.8%)、「ごみの量が本当に減るのかわからない」(18.8%)、「税とは別に市民がごみの処理費用を負担する必要はない」(16.5%)と続いている。

(1-3) 有料化に「どちらともいえない」の理由

問12 その理由について、特に当てはまるものを次の中から選びください。(○は2つまで)

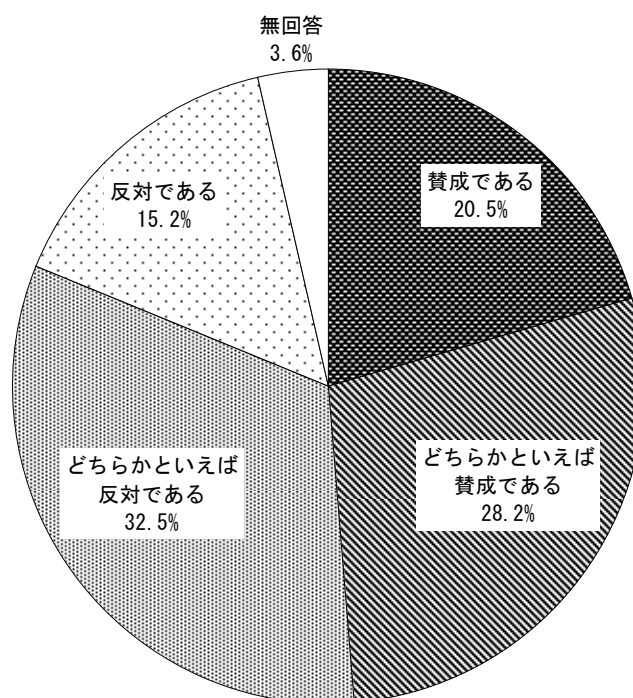


有料化に「どちらともいえない」とした理由は、「ごみの量が本当に減るのかわからない」(48.7%)が5割近くと最も高くなっている。次いで、「世帯や個人の負担額がわからない」(44.1%)、「メリットとデメリットが同じくらいなので決められない」(32.3%)、「その他」(12.3%)と続いている。

3 戸別収集について

(1) 戸別収集について

問13 あなたは、戸別収集についてどのように思いますか。(○は1つ)

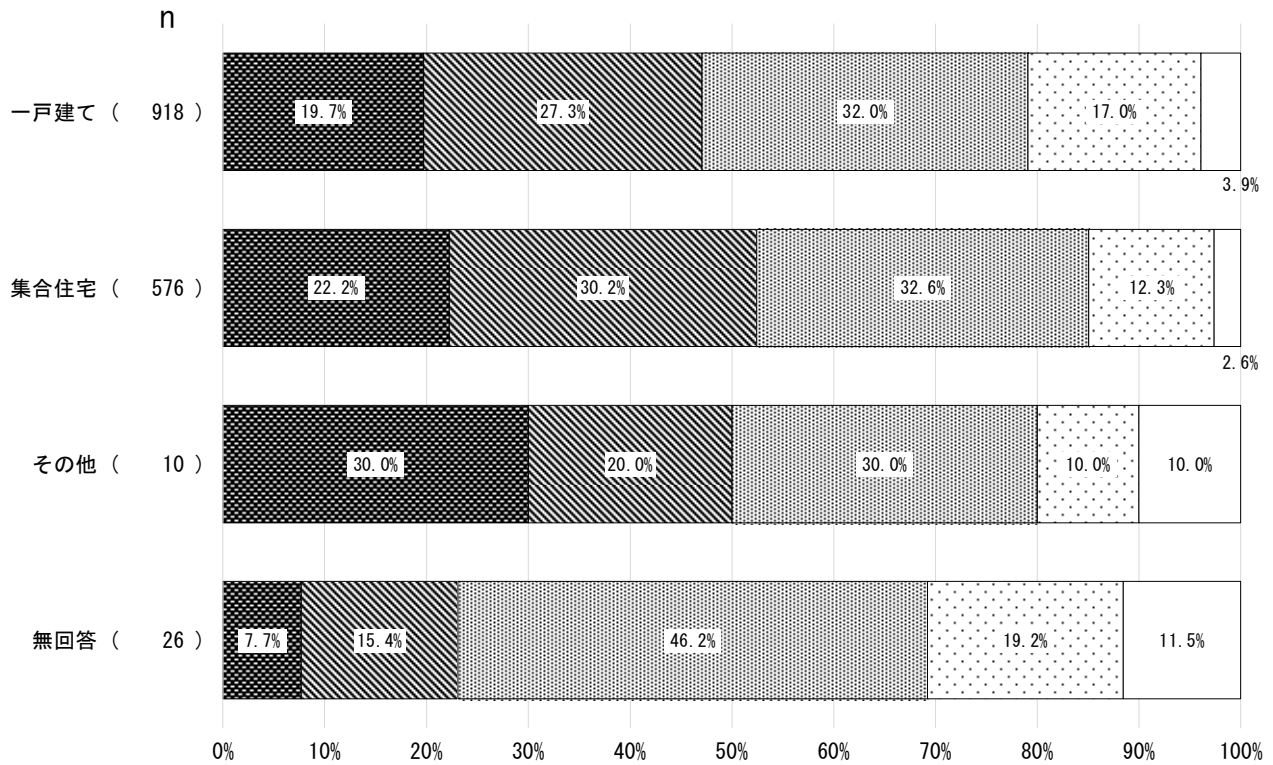


n=1,530

戸別収集について、「賛成である」(20.5%)と「どちらかといえば賛成である」(28.2%)の2つを合わせた《賛成(計)》(48.7%)は、5割近くとなっている。「反対である」(15.2%)と「どちらかといえば反対である」(32.5%)の2つを合わせた《反対(計)》(47.7%)は、5割近くとなっており、結果として大きな違いはみられない。

<住居形態別結果>

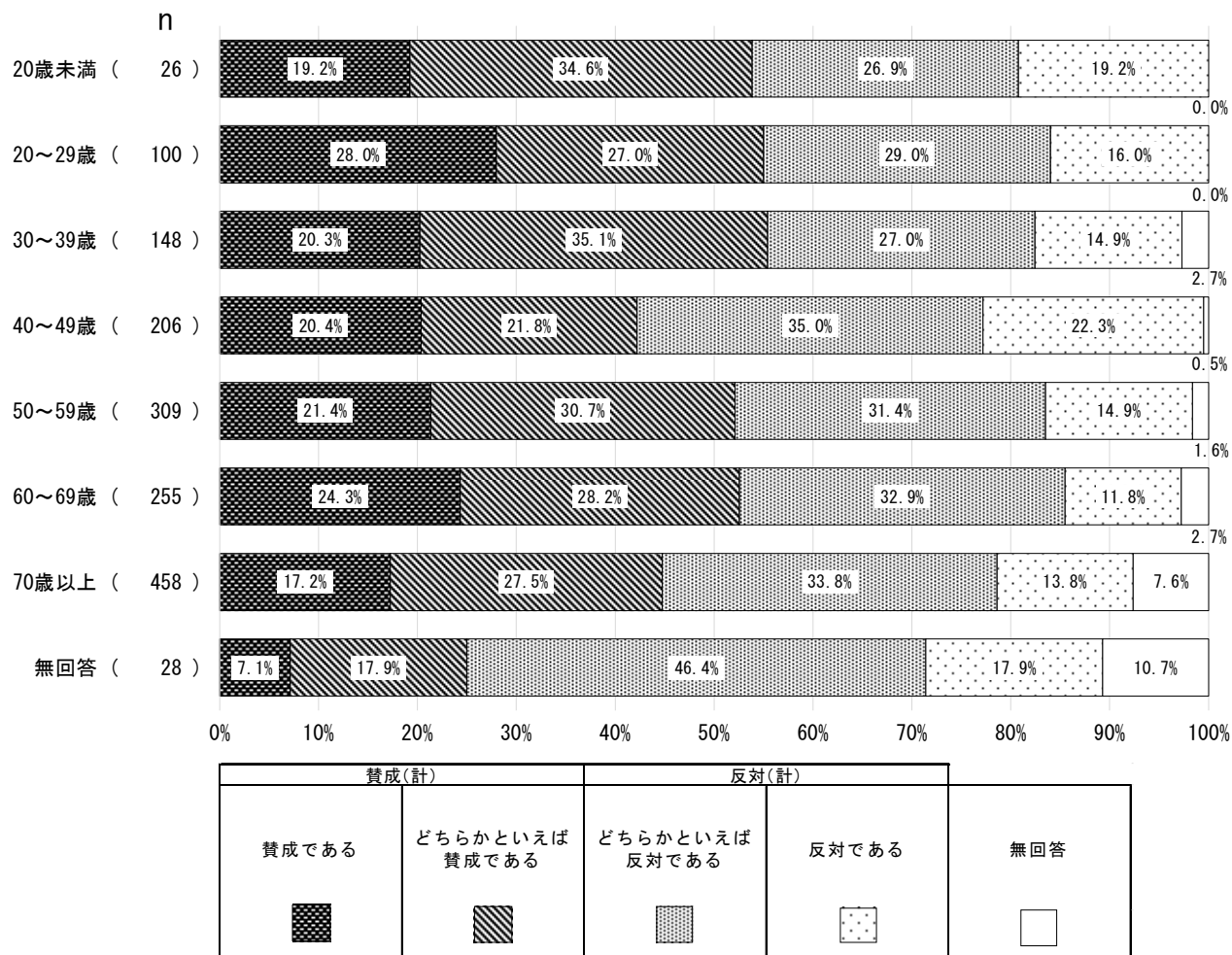
住居形態別で集計しても、大きな違いはみられない。



賛成(計)		反対(計)		
賛成である	どちらかといえば賛成である	どちらかといえば反対である	反対である	無回答
				

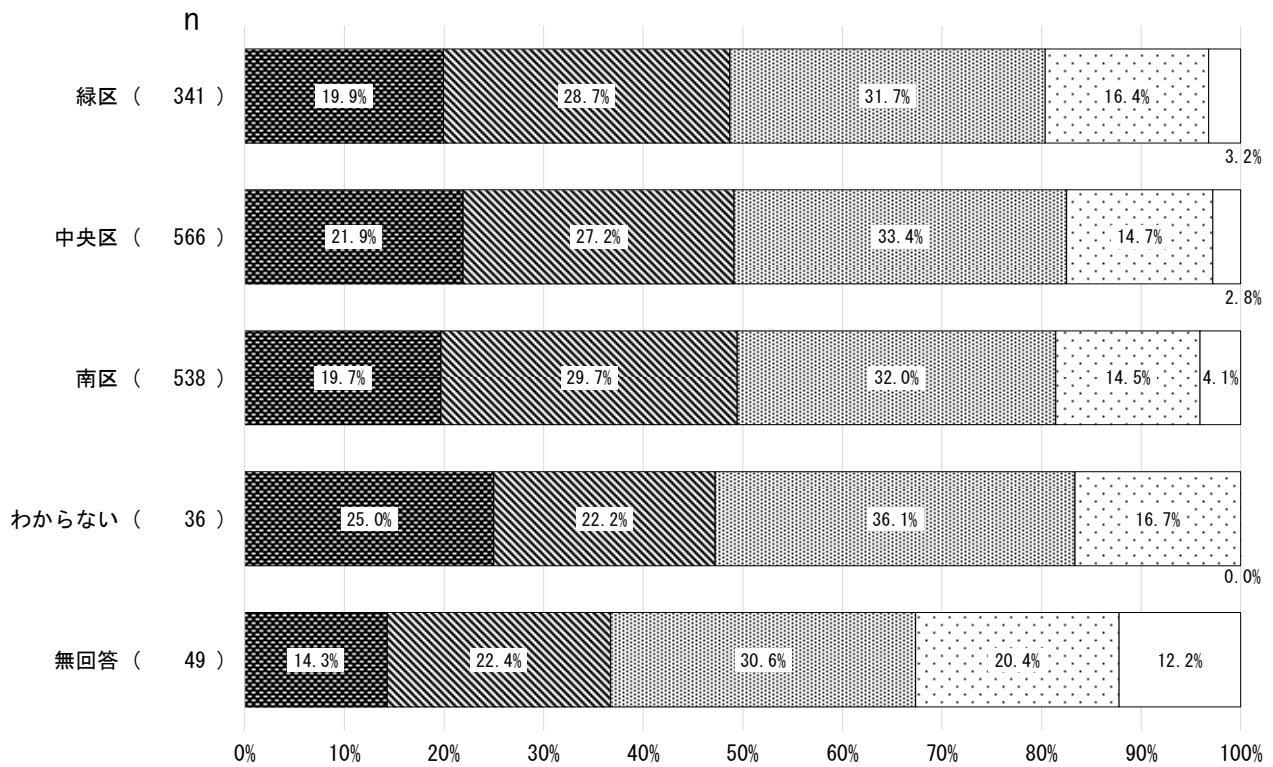
<年齢別結果>

年齢別でみると、《賛成（計）》は30代（55.4%）が5割半ばと最も高い結果となっている。《反対（計）》は40代（57.3%）が5割半ばと最も高い結果となっている。



<区別結果>

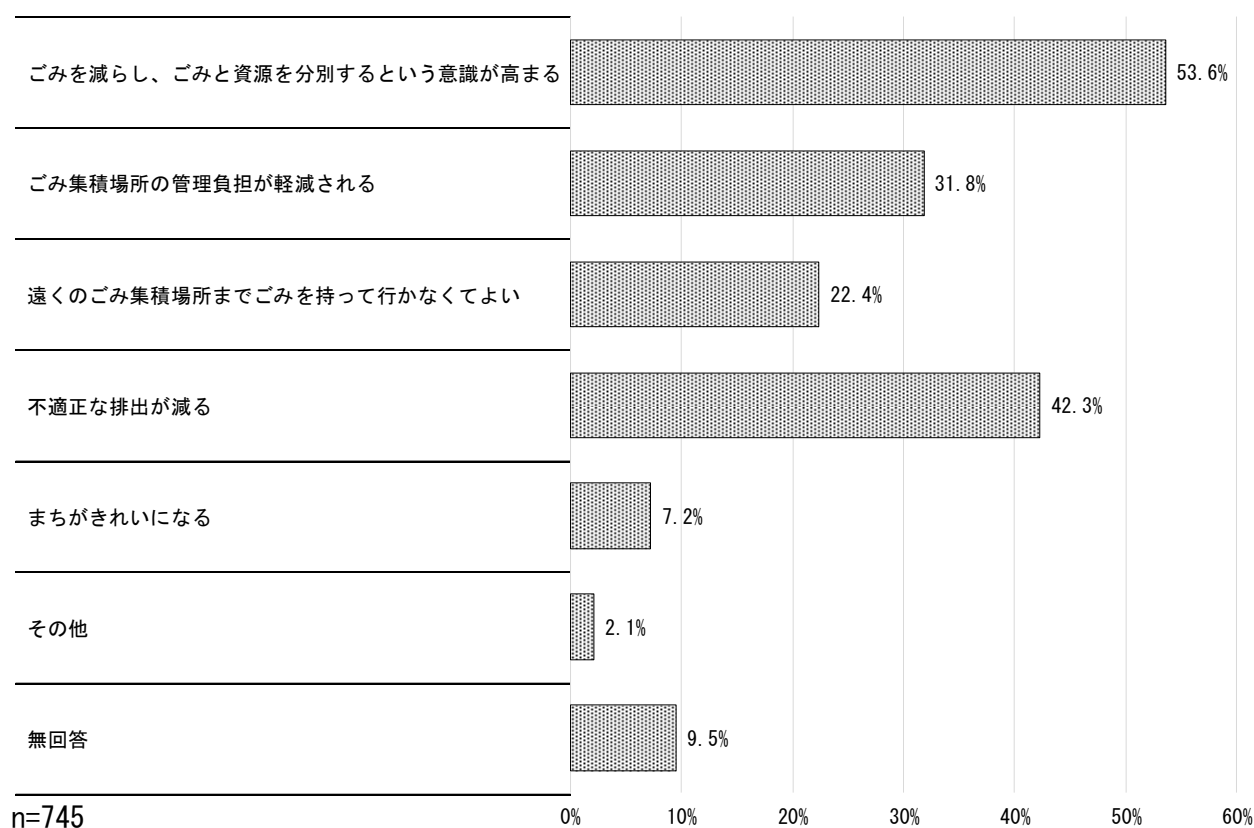
区別で集計しても、大きな違いはみられない。



賛成(計)		反対(計)		
賛成である	どちらかといえば賛成である	どちらかといえば反対である	反対である	無回答
				

(1-1) 戸別収集に「賛成」の理由

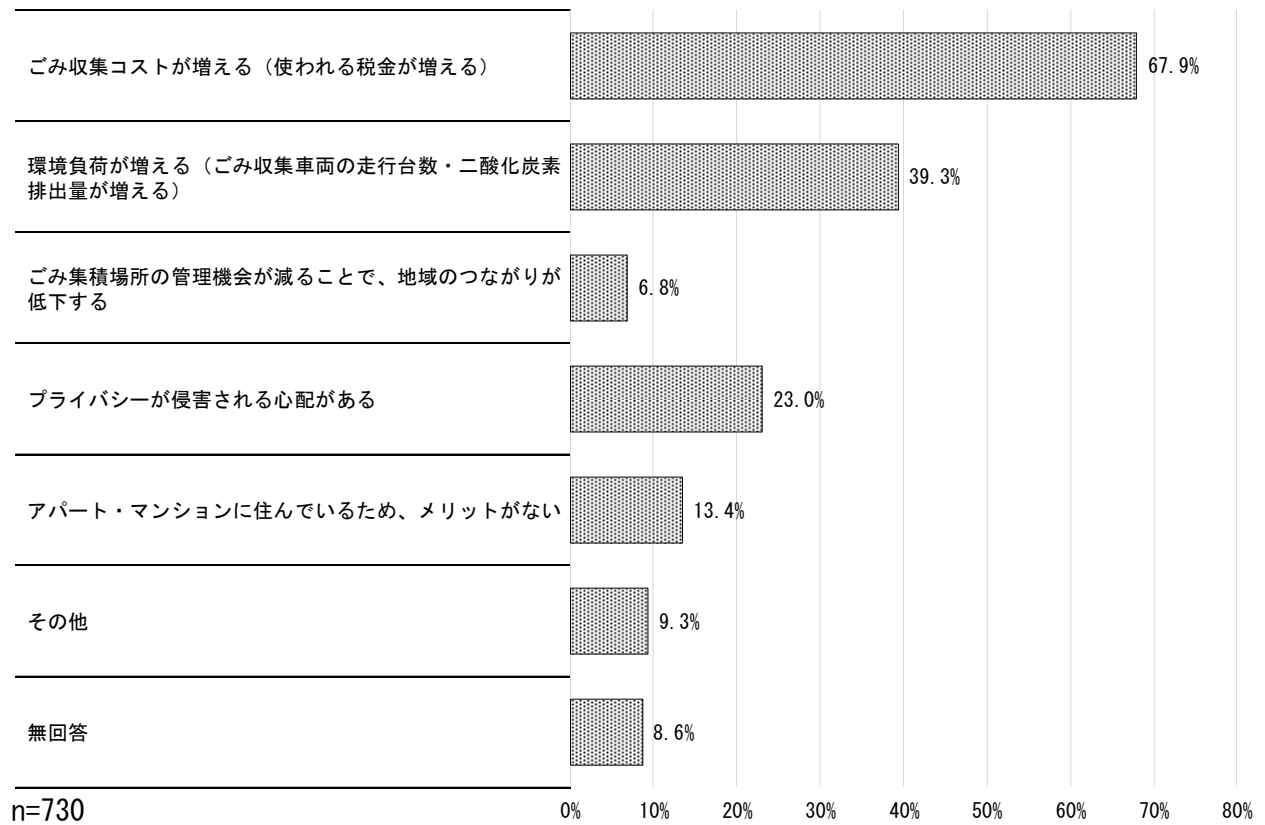
問14 その理由について、特に当てはまるものを次の中からお選びください。(○は2つまで)



戸別収集に賛成する理由は、「ごみを減らし、ごみと資源を分別するという意識が高まる」(53.6%)が5割半ば近くと最も高くなっている。次いで、「不適正な排出が減る」(42.3%)、「ごみ集積場所の管理負担が軽減される」(31.8%)、「遠くのごみ集積場所までごみを持って行かなくてよい」(22.4%)と続いている。

(1-2) 戸別収集に「反対」の理由

問15 その理由について、特に当てはまるものを次の中から選びください。(○は2つまで)

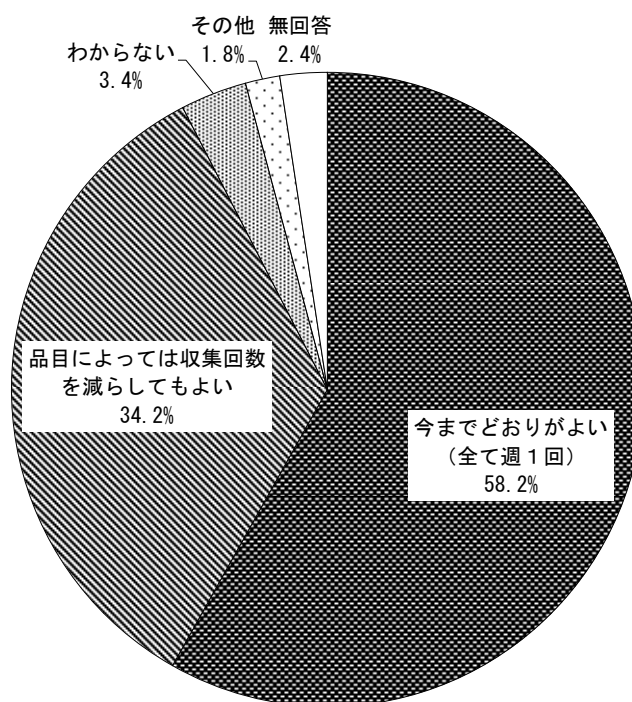


戸別収集に反対する理由は、「ごみ収集コストが増える（使われる税金が増える）」(67.9%) が7割近くと最も高くなっている。次いで、「環境負荷が増える（ごみ収集車両の走行台数・二酸化炭素排出量が増える）」(39.3%)、「プライバシーが侵害される心配がある」(23.0%)、「アパート・マンションに住んでいるため、メリットがない」(13.4%) と続いている。

4 その他について

(1) 資源の収集回数について

問16 今後、市が資源の収集回数を見直すとしたら、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

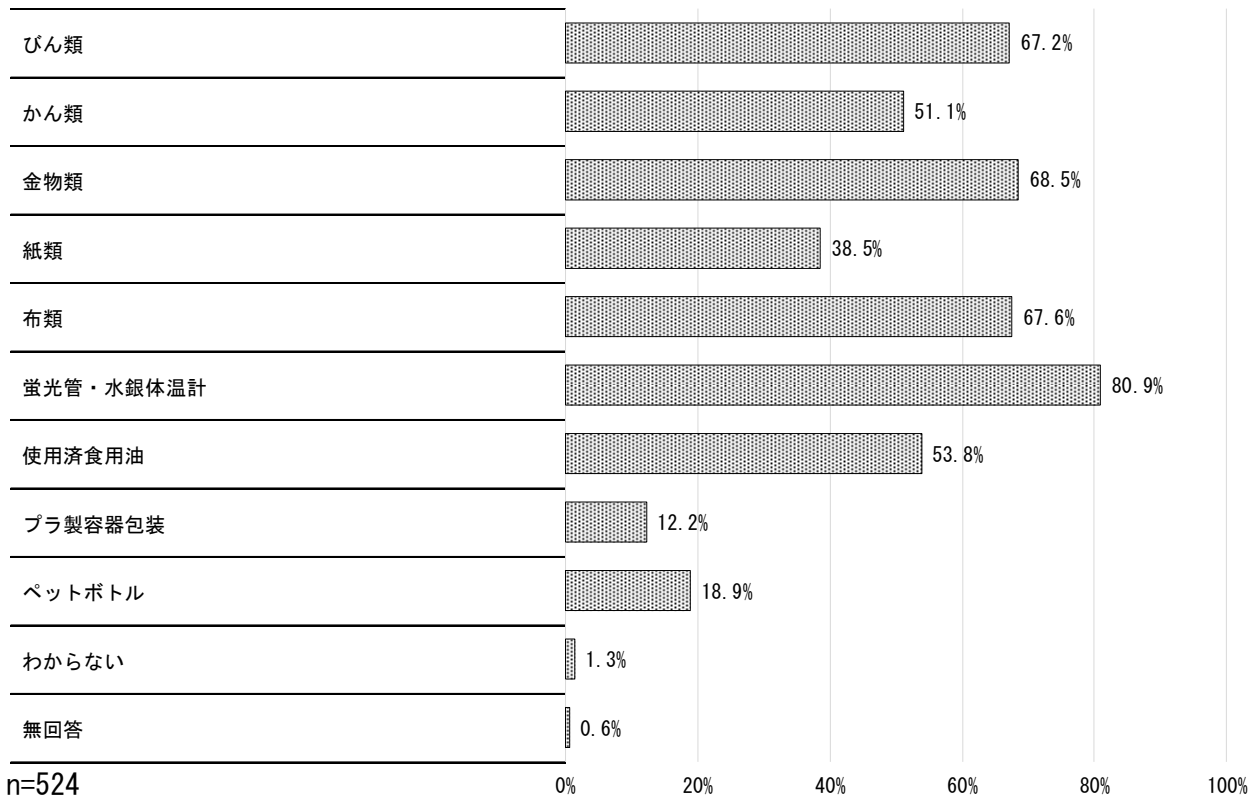


n=1,530

資源の収集回数について、「今までどおりがよい (全て週1回)」(58.2%) が6割近くと最も高くなっている。次いで、「品目によっては収集回数を減らしてもよい」(34.2%)、「わからない」(3.4%)と続いている。

(1-1) 収集回数を減らしてもよい品目について

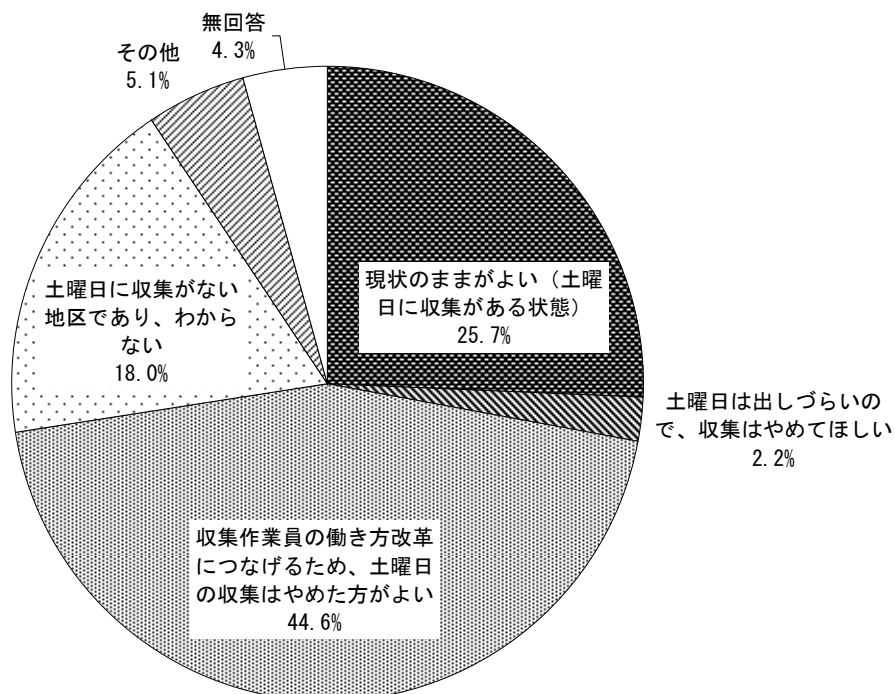
問17 どの品目であれば収集回数を減らしてもよいとあなたは思いますか。(○はいくつでも可)



収集回数を減らしてもよい品目は、「蛍光管・水銀体温計」(80.9%)が8割を超えて最も高くなっている。次いで、「金物類」(68.5%)、「布類」(67.6%)、「びん類」(67.2%)と続いている。

(2) 土曜日の収集について

問18 現在、地域によっては土曜日が収集日となっています。一方で、厚木市や八王子市のように収集作業員の働き方改革や人材確保の観点から、土曜日の収集をなくす取り組みを進めている自治体もあります。土曜日に家庭ごみや資源の収集があることについて、あなたはどのように思いますか。(〇は1つ)

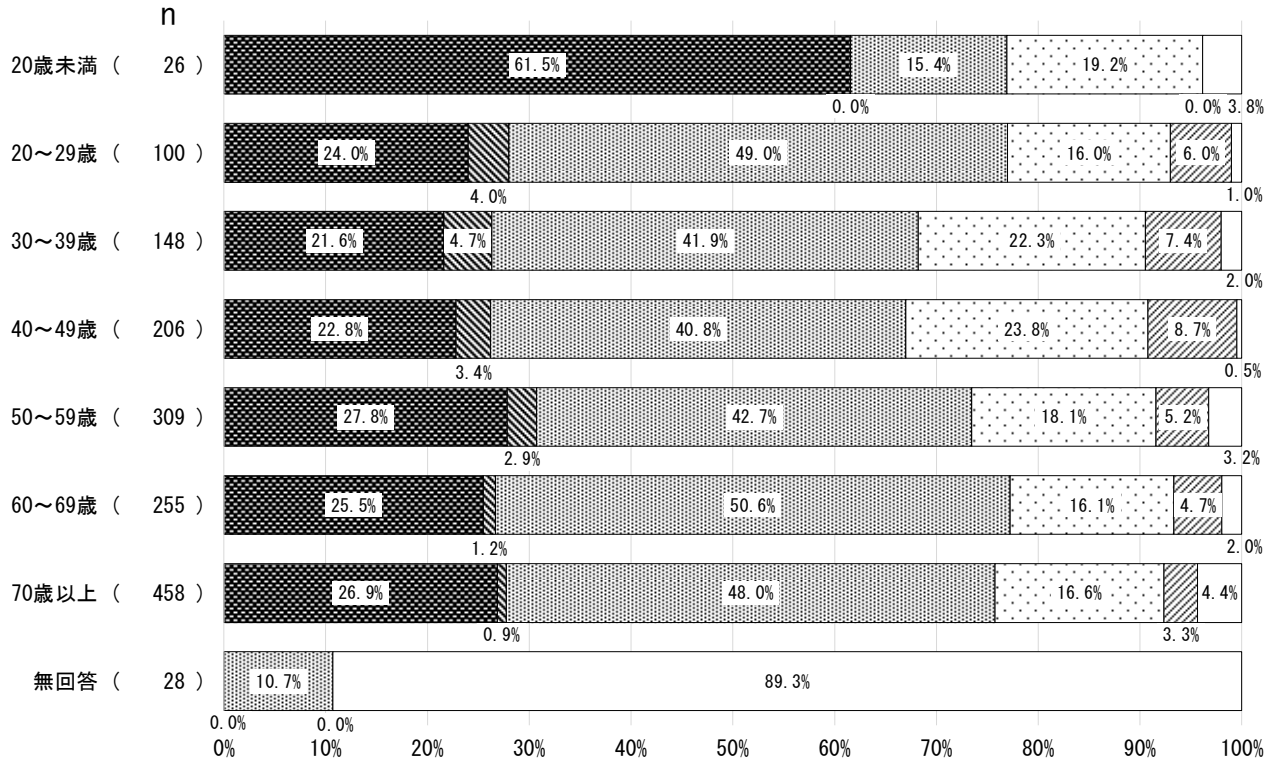


n=1,530

土曜日の収集について、「収集作業員の働き方改革につなげるため、土曜日の収集はやめた方がよい」(44.6%)が4割半ばと最も高くなっている。次いで、「現状のままだがよい(土曜日に収集がある状態)」(25.7%)、「土曜日に収集がない地区であり、わからない」(18.0%)、「土曜日は出しづらいで、収集はやめてほしい」(2.2%)と続いている。

＜年齢別結果＞

年齢別でみると、「現状のままだがよい（土曜日に収集がある状態）」（61.5%）は、20歳未満が6割を超えて最も高くなっている。「土曜日は出しづらいので、収集はやめてほしい」は、どの年代も1割に満たない結果となっている。「収集作業員の働き方改革につなげるため、土曜日の収集はやめた方がよい」は、20歳未満を除いた年代で4割半ば前後となっている。



現状のままだがよい （土曜日に収集がある状態）	土曜日は出しづらいので、収集はやめてほしい	収集作業員の働き方改革につなげるため、土曜日の収集はやめた方がよい	土曜日に収集がない地区であり、わからない	その他	無回答